

都留文科大学

# 同窓会報

## 第41号会報

発行 都留文科大学同窓会事務局

責任者 渡邊正司

山梨県都留市田原3-8-1

☎0554-43-4341



都留文科大学 新棟完成イメージ



## 大切に もらった記憶

都留文科大学同窓会会長

河 端 雄 一



同窓会員の皆様方におかれましては、日頃より本会の活動に対しまして、ご支援とご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の蔓延により、公私ともに多くの影響があるかと拝察いたします。

私事ですが、職場が本学から歩いて2分の場所にあります。部屋の窓からは「文大坂」と建設中の新校舎が見えます。そのような環境から、毎朝坂を眺めることが日課になっています。日を増すごとに、学生が坂を上っていく姿に力強さが感じられ、その姿からコロナ渦を乗り越え、前に進もうとする本学の姿勢をも感じることができます。

また、本学の学生との関わる機会も多いことから、学生達が本学を選んだ理由について直に聞くことができます。多くの学生にとって、学校の先生方から「都留文科大学はいい大学だ」「都留はいいところだ」と何回も話していただいたことが後押しになっているようです。

後押ししていただいた方々に感謝すると共に、そのエピソードから、その方々の生き方に本学や都留という町が「大切にもらった記憶」として強く心に残っていることを感じています。

「大学の先生方からいただいた厳しくも温かいご

指導」「課外活動で切磋琢磨した仲間との思い出」「下宿先での仲間や都留の人々とのつながり」「校舎やグラウンドの空気感」「都留の風景」「都留を離れるときの言葉にしがたい思い」など。

それらが、「何十年も前のことなのに、思い出すと気持ちが強くなるもの」として、今でも心の中に生き続けているのではないかと。

そのようなことを感じる出来事もありました。11月に本学にて開かれた「富士山プロジェクト2022」というイベントに、多くの同窓生の皆様が遠くから駆けつけてくださり、都留に来ることができた喜びを伝えてくださいました。同じ月に石川県支部の20周年記念定期総会が開催され、同窓生の皆様が学生時代の話を中心に熱く語り合われていました。その時々の方々の表情からも、「大切にもらった記憶」を背景とした本学への強い思いを感じました。また、それらが原動力になり、各支部の活動を支え、推進されていることを再認識いたしました。

今日も学生が「文大坂」を上っています。そして、大学も新たな挑戦に向けて歩を進めています。この積み重ねによって、都留での学びをより豊かにし、学生の心の中に「大切にもらった記憶」として、生き続けていくと信じています。

同窓会もこうした歩みを支えるべく、知恵を出し合い、更に交流を深めていけるよう準備を進めています。

結びになりますが、会員の皆様が都留に集まって語り合える日が一日も早く来ること、また皆様方がご自愛され、ご家族とともに平穏な日々を過ごされることを願い挨拶と致します。

### 都留文科大学同窓会役員

| 役 職 名     | 氏 名    | 卒 科    | 役 職 名   | 氏 名   | 卒 科  | 役 職 名    | 氏 名  | 卒 科  | 役 職 名 | 氏 名  | 卒 科  |
|-----------|--------|--------|---------|-------|------|----------|------|------|-------|------|------|
| 名誉会長      | 藤田英典   | 学 長    | 茨城県支部長  | 長岡省一  | S55英 | 奈良県支部長   | 岡田善英 | S45初 | 理 事   | 小林隆章 | S52初 |
| 会 長       | 河端雄一   | S63初   | 栃木県支部長  | 平野見一  | S54英 | 和歌山県支部長  | 谷口博保 | S51初 |       | 遠藤建生 | S58特 |
| 副 会 長     | 桐井幸雄   | S32初   | 群馬県支部長  | 齋木雄造  | S52国 | 鳥取県支部長   | 藤井幹裕 | S55初 |       | 平井昌秀 | S59初 |
|           | 杉中康平   | S59初   | 埼玉県支部長  | 西 敬   | S56初 | 島根県支部長   | 小藤 貢 | S44初 |       | 内藤郁夫 | S48国 |
|           | 笹本忠彦   | S62英   | 千葉県支部長  | 川名和則  | S51英 | 岡山県支部長   | 関野茂夫 | S58初 |       | 若林四郎 | S31商 |
|           | 渡邊正司   | S63初   | 東京都支部長  | 松本多加志 | S44初 | 広島県支部長代理 | 二宮 正 | S49英 |       | 千野文雄 | S48英 |
| 庶務会計      | 小口尚良   | S60初   | 神奈川県支部長 | 山田節朗  | S45初 | 徳島県支部長   | 小倉健司 | S53英 |       | 小尾宗彦 | S52英 |
|           | 原田裕太   | H7初    | 新潟県支部長  | 池原栄一  | S50初 | 愛媛県支部長   | 谷川忠孝 | S42初 |       | 石井正己 | S51初 |
| 事務局次長     | 山本香栄   | 大学課長補佐 | 富山県支部長  | 城岸 毅  | S54初 | 高知県支部長   | 前田志郎 | S48初 |       | 後藤 敬 | S33商 |
|           | 奥脇美穂   | H1初    | 石川県支部長  | 谷内誠一  | S50英 | 長崎県支部長   | 平山繁壽 | S44初 |       | 佐藤英雄 | S38国 |
| 事務局次長     | 浜欠亮吉   | S39国   | 福井県支部長  | 佐藤康裕  | S61初 | 熊本県支部長   | 永田好文 | S47初 | 顧 問   | 奥石 東 | S32初 |
|           | 外川正純   | S46英   | 山梨県支部長  | 一瀬英治  | S46国 | 宮崎県支部長   | 取附義弘 | S51初 |       | 山縣永良 | S39国 |
| 監 事       | 梶原裕一郎  | H12初   | 長野県支部長  | 市場香代子 | S60英 | 鹿児島県支部長  | 本田武久 | S43国 |       | 勝俣武男 | S41初 |
|           | 淡野香百合  | S39初   | 岐阜県支部長  | 清水久司  | S53国 | 沖縄県支部長   | 比嘉正夫 | S53英 |       | 永田清一 | S46国 |
| 理 事 (支部長) | 相川洋子   | S52英   | 静岡県支部長  | 臼井 泰  | S46国 | 北海道      | 加藤佳栄 | S55英 |       | 千野文雄 | S48英 |
|           | 北海道支部長 | 北田則章   | 愛知県支部長  | 水野修司  | S60英 | 東北地方の理事  | 鎌田 清 | S47初 |       | 亀田孝夫 | S51英 |
|           | 青森県支部長 | 遠藤ゆみ子  | 三重県支部長  | 田畑繁行  | S53初 | 兵庫県      | 赤穂榮一 | S40英 |       | 原 喜雄 | S53初 |
|           | 岩手県支部長 | 高橋節夫   | 滋賀県支部長  | 松嶋孝雄  | S46初 |          | 比志秀樹 | S51国 |       | 加藤一雄 | S53初 |
|           | 宮城県支部長 | 片岡有吾   | 京都府支部長  | 枅谷雄三  | S44初 |          | 高橋雄二 | S60初 |       | 柏木精一 | S57初 |
|           | 山形県支部長 | 原田清一   | 大阪府支部長  | 藤田明彦  | S57初 |          | 諏訪桂一 | S57国 |       |      |      |
|           | 福島県支部長 | 大竹豊紀   | 兵庫県支部長  | 高谷和久  | S43初 |          | 玉島正隆 | S59初 |       |      |      |
|           |        |        |         |       |      |          |      |      |       |      |      |
|           |        |        |         |       |      |          |      |      |       |      |      |
|           |        |        |         |       |      |          |      |      |       |      |      |

令和5年2月1日現在

## 都留文科大学の 近況と新たな取組

都留文科大学学長

### 藤田 英典



学長に就任して3年が過ぎました。1年目は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、入学式が中止となり、さらに緊急事態宣言下で遠隔授業が中心となりました。2年目は、保護者等の参列なしではありましたが、入学式が挙行され、授業は対面・遠隔併用で行われ、課外活動も適切かつ十分な感染防止対策を講じたうえで実施可能となりました。そして3年目は、「感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る」という政府の方針の下、コロナ以前の状態を取り戻しつつあると感じた一年でした。授業は原則対面になり、桂川祭も対面で開催できました。留学も再開され、本学から学生を送り出すとともに、40人以上の留学生を迎えることもできました。また、2022年10月22日～11月5日には都留市と同教育委員会の後援、富士急グループの協賛と、映画監督・富田克也さん、世界的に著名な全米図書賞等の受賞作家・多和田葉子さん（本学特任教授）やプロの歌手・ピアニストや都留文合唱団・都留高校合唱団・吉田高校合唱部・都留市合唱連盟有志や都留ドラマカンパニー（都留文）の出演協力を得て都留文主催「富士山プロジェクト2022」（富士山映画祭、富士山講座、富士山音楽祭、富士山文学祭）がうぐいすホールで開催されました。

キャンパスに活気が戻っただけでなく、将来に向けての新たな取り組みも始まっています。その第1は、学部学科の再編とカリキュラム改訂です。現行の文学部のうち比較文化学科（比文）と国際教育学科（国際）を教養学部に移し、国文と英文からなる文学部と比文・国際と学校教育学科・地域社会学科からなる教養学部再編し、各学部・学科のカリキュラム改訂（諸開講科目の調整・配置）を構成学科間で統合的に行い、併せて主専攻・副専攻制を導入し、豊かな学びの実現を図るもので、2024年度から実施されます。これは、国の大学教育政策の転換（中教審「グランドデザイン答申」平成30年11月&「教学マネジメント指針」令和2年1月）と出生率低下・18歳人口減少に伴う本格的な「大学淘汰の時代」に対応しようとするものです。

第2の取り組みとして、旧南都留合同庁舎を全面改修した新棟が今年4月から供用開始となります。この新棟とその周辺は景観面でも機能面でも都留文の魅力向上と新たなチャレンジの拠点になっていくと期待しています。また、「生涯活躍のまち・つる」田原複合型居住プロジェクト地域交流拠点施設）にも都留文との連携施設が建築中です。これら二つの施設は市民と大学の新たな接点になるとともに、学生や教職員の新たな挑戦とつながりの拠点になっていくものと期待しています。

同窓会関連では、昨年11月9日に都留文石川県支部・設立20周年の式典に参列させていただきました。学長になって初めての経験でしたが、都留文のこれまでとこれからが全国の同窓会支部と同窓生の皆様に支えられているのだと実感する貴重な機会となりました。

## 「ふるき、よきもの」 を、これからも

都留文科大学退官教授  
学校教育学科

### 佐藤 隆



1997年に本学に着任が決まった時、そのうれしさとともに緊張したことをいまでも覚えています。それは上田薫先生や大田堯先生などが学長を務められ、私の専門の教育学の世界では有名な大学だったからです。

また先年100歳で亡くなられた大田先生とは不思議な縁があったからでもありました。じつは私の修士論文は、若き日の大田先生が、戦後直後に、ご自身の故郷・広島県本郷町の教育計画に取り組んだ意味を検討したものでした。また、偶然にも大田先生のご自宅がある東浦和に私も住んでおり、お会いする機会も多く、たくさんのお話を学ばせてもらいました。先生の最晩年までおつきあいさせてもらえたことは、私にはかけがえのないものとなりました。

さて、話を着任当時に戻します。驚いたことのひとつは、学生たちの親密さでした。学生みんなが都留市内に

住んでいて、なにかあれば助け合うコミュニティがゼミや学科の枠を超えてつくられていたことです。それを頼もしくも思いましたが、一方で厄介なこともありました。それは私の言動があつという間に学生たちに伝わってしまうことでした。考えてみれば当然で、彼らは市内のいたる所でアルバイトをしていて、こちらの一举一動が「監視」されてもいるのですから。それに気づいてからは、都留近辺では「変なこと」をしてはいけないのだということ肝に銘じたものでした。

もうひとつは、教員と学生が卒業後も家族のようにつきあっていることでした。他大学に先駆けて「地方」受験を実施していた本学は「全国区」の大学として知られていますが、入試のときに各地に赴くと卒業生たちがががつの指導教員のもとに集まり、近況を語り、酒を酌み交わす場面に何度も遭遇しました。それは、都留が単なる「通過」地点ではなく、まさに生活を共にし、自分をつくった場所として、卒業後も深く心に刻まれているからなのだと思います。

さすがに、今はこのような雰囲気は薄れましたが、ともに学ぶことと生きることを自分の心と体に刻む場所としての都留文科大学のアイデンティティをこれからも大切にしていきたいと願っています。



## シジュウカラとダンサーと 大事にしたいことと

都留文科大学退官教授  
初等教育学科

### 春日 作太郎



シジュウカラ（四十雀）の鳴き声に"ことば"としての機能があることを実証した鈴木俊貴らの研究が、広く知られるようになり嬉しい。

特に、公開された動画で注目すべきは、四十雀が他種の鳥に締め出された餌場を取り戻すために、「猛禽が来た、逃げろ！（日本語訳）」と嘘を何回か繰り返すと、初めは慌てて逃げていた鳥達が逃げなくなるという点である。功利的な説明では、「逃げるという行動」に対して、「危険や恐怖の回避という利益」が得られなくなったからだとするだろう。しかし、本当に猛禽が頭上に現れた場面と嘘つき場面を虚心に見比べて見れば、嘘つき場面では四十雀のからだに恐怖を感知した時のからだの反応が無いのが分かる。からだに恐怖反応が伝染ってきてバタバタと逃げる行動を解発するわけであるから、こ

の恐怖反応が無ければバタバタとはならないのである。初めの内逃げたのは、過去の学習効果である。

犬や猫も、からだのレベルで主人を見ているから、悲しみや怪我が在るといたわる行動をとる。人間の親子の見つめ合う眼差しも、本来は同じである。

世界的ダンサーで演出家の勅使河原三郎は、指導の中でからだを開いて真つすぐ立つことを大切にしている。その上で、「いわゆる見えないものが、見えるものを明瞭にする」と言う。物質的な存在の顕在化した動きが湧き出てくる奥底に、からだを開いて覗き込んだ時、そうしているからだに生き生きと成り立ち、思わず動きだし、主体として意味を持つ。知識や言葉を人と関わらぬ壁にする在り方とは、真逆だ。

客観性の確保や法則性の抽出の際に、声も含めた生のからだの反応を、とかく無機的な信号として扱い勝ちであるが、現実の人々の生活の核心には至らない。身構えを解いて真つ直ぐ相手に向かうことを親からも学びにくい社会だ。素直に、時系列や事実を照合すれば暴ける嘘でも、恐怖政治の下では喧伝された嘘で無自覚に生贄作りに走るのも人間である。ものを教えるということは、権威の説や法則が、自分は本当は何を大事にどう生きたいか模索する叩き台として生かされることへの、切なる祈りだと思う。

## 伝統を守り、 結果を出すために

都留文科大学退官教授  
国文学科

### 鈴木 武晴



同窓会の皆様には、日ごろ大学及び学生へのご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

二十八年間勤めさせていただいた大学を去るにあたって、同窓会との思い出をもとにメッセージを記したいと思います。

本学が公立大学法人となって最初の二年間、学長補佐の任を務めさせていただきました。例年四月末に開催されていた、同窓会の先生方による教員志望の学生たちへのご指導の会にも参加させていただきました。当時の同窓会長の永田清一先生や副会長の千野文雄先生ほか多くの先生方に本学にお越しいただき、たいへんお世話になりましたこと、今も心に刻まれています。

実践的集団討論や模擬授業に対する丁寧で適切なアドバイス。その後、各教室に分かれての県別教採指導。全国へ新教員を送り出す伝統を守り結果を出すための真摯なご指導を目のあたりにし、強い影響を受けました。そして、本学の就職率を上げるために、微力を尽くしました。

任務を退いてからは、ゼミの学生のキャリア指導に力を入れ、教員のみならず、公務員、図書館司書等々、学生が志望する職種についての助言を行ない、結果を残してきました。優れた学生は、ポイントアドバイスで、よい方向へと向かってゆきます。

結果までの過程が大切であることは言うまでもありません。しかし、結果を出さなければ、過程の意味も半減してしまいます。大学の評価にもかかわります。

年々教員志望の学生数が減ってきている状況のなかで、本学の伝統を守ってゆくことは容易なことではありません。大学と同窓会とが緊密に連携して、伝統を守り、結果を出しつづけることを願っています。

末筆ながら、同窓会の皆様のますますのご健勝を祈念して、退職のご挨拶と致します。

## 都留文科大学退職 にあたって

都留文科大学退官教授  
地域社会学科

### 春日 尚雄



5年間の短い期間でしたが都留文科大学と同窓会の皆様には大変お世話になりました。

今更の自己紹介になりますが、私は東京都の出身で社会人としての経歴の大部分を民間企業に勤務しておりました。

地域社会学科の新設にともない、2018年4月より国際経済論担当として着任しました。新学科に入学した第一期生が4年を経過し2022年3月に卒業生を見送りましたが、その際には大変感慨深いものがありました。

着任2年目からは3年間学科長を仰せつかりましたが、マネジメントと言っても企業とは大きく異なり、右も左も分からないことから大変ご迷惑をお掛けしたと思います。発足間もない新学科の運営に少しでも貢献できたこととすれば幸いです。

業務を円滑に進めるため、私にとって東京からの通勤は厳しく、谷村町駅近くに住むことを選択しましたが、遠隔地から通勤している教員は肉体的にも精神的にも負担が大きく、今後教員採用も難しくなる中、何らかの対応ができないかと思う次第です。

都留の地に住むことは私にとって決して不便なことばかりではなく、豊かな自然が近くにあることは東京では味わえない数々の経験をさせてもらいました。都留の水は絶品で、東京に戻り水道水を飲むとその差がはっきりとわかりました。このような地に東京からの移住者が増えていくことはリモートワークの進む今では当然かと思いますが、もっと加速できないものかと思っています。

コロナ禍では社会が大きく変わってしまい、大学生活でも学生諸君には苦しく不自由な思いをさせたとと思います。その中で2022年度の夏休みにタイのタマサート大学に短期留学を実施できたことは、大変良かったと思います。都留文科大学のように大規模ではない大学がグローバル化を標榜するには、特に教職員が強い意志と使命感を持ってあたる必要があるかと思っています。

今後とも都留文科大学同窓会の温かいご支援をお願い申し上げると同時に、皆様のますますのご発展をお祈り致す次第です。



# 活躍する同窓生

音楽に魅せられて  
～オホーツクから  
新しい文化の発信中

谷 藤 彌 (竹号：紅山)  
(昭和41年度 英文学科卒)



## 「大学時代の経験を活かして」

都留文科大学器楽部がマンドリンクラブに名称を替えた時、今でも使用されているクラブ旗を考案しました。初等教育科卒の妻と共に先輩諸氏に指導を受けて、学業の傍ら私はフルート奏者や指揮者として活動していました。英文科での教育実習は杓が いっぱいで音楽で教壇に立ったのを覚えています。その頃、編曲も手がけなければならなかったことが現在の作曲活動にも活かされており感謝しています。

‘70年から‘86年までの後輩達が17年に渡って録音した定期演奏会のレコードを北海道まで送って下さり、今でも大切に保管しています。

その後、中学校英語教師となりましたが、カタカナばかりの楽器を愛好し、日本人として和楽器についての知識を持ち合わせておらず、外国人に説明もできないようでは恥ずかしいと思い、27歳で尺八の音に魅せられ、現在は都山流尺八楽の最高位・竹琳軒大師範を允許され、東北北海道支部長や遠軽三曲協会会長として邦楽の普及と継承に努めています。

2001年から19年間にわたり箏・三絃・尺八で構成する中学校邦楽部の創立者として、退職後は外部指導者として週3回の奉仕活動をし、97名の和楽器愛好者を育成しました。少子化に伴う教員数削減、さらに部活動数減により廃部となりましたが、全国から子供達へと寄贈された楽器を活かすために遠軽邦楽ジュニア・アンサンブルを創設し、現在に至っております。

また、約20年間に渡り吹奏楽部の指導者として法人作品の普及に貢献できたのも大学時代の音楽活動のおかげと感謝しています。

## 「オホーツクから世界への新生楽器の発信」

2004年に退職後、ニューヨークで開催された国際尺八音楽祭に、尺八とフルートを合体させたハイブリッド楽器「シャクルート」の創始者として招待

され、世界各地から尺八を手に参加した約200名の皆さんに尺八とシャクルートで妻との共演をご披露させていただきました。その機会にと尺八ヘッドジョイントを制作するカリフォルニアのMonty Levenson氏の提案で、私が箏や琵琶とシャクルートの為の8曲を作曲し、CD 1st Albumとして発売しました。その後も17絃箏、ピアノ奏者と共演した邦人作品を2nd Albumとしてカリフォルニアで制作して発売しています。シャクルート愛好者も日本には60名、海外には300名程に増え、ヘッドジョイント購入者には私のCDが添付されています。その活動が管楽器専門誌「Pipers」や東京・中日・北海道新聞やテレビでも紹介され、2005年6月には日土文化交流協会の招待によるトルコでの3回公演(妻も同行演奏)、さらに同年8月にはサンディエゴで開催されたNFA (National Flute Association) 主催のイベントで4ステージを務め、世界的に著名な尺八奏者John 海山 Neptune氏との共演にも参加させて頂きました。その間、海外とのメールの交信や現地での演奏前の打合せ、並びに曲目や楽器の紹介を英語で行えたのも都留文科大学英文科で学んだことが活かされ、今もなおBrush Upしなければと意識させる源となっています。

Shakuhachi Headjoint for Silver Fluteとして製作された新生楽器をShaku-luteと命名し、今後多くの人に知って頂き、「縦に吹くフルート」として肩が疲れず、尺八に近い低音の魅力と、フルートと同様に♯や♭を多用した速いパッセージも可能な楽器として各地で広めていきたいとコンサート活動を続けています。

## 「これからも夢と希望をもって」

日本の大切な伝統楽器としての尺八の普及継承のために学校への出前授業も積極的に受け入れて行っています。遠軽町に新設された芸術文化交流プラザオープン後、毎月のように活用し、町民を始め多くの人達に音楽を通じて平和の尊さを訴えていきたいと思っています。最後に座右の銘としている松下幸之助氏の言葉を紹介して、この度の寄稿を結びたいと思います。「青春」とは心の若さである。信念と希望にあふれ勇気に満ちて、日に新たな活動を続ける限り青春は永遠に、その人のものである。



# 活躍する同窓生

## 夢に向かって

### 山下 悟

(昭和46年度 英文学科卒)



## 大学時代

昭和43年3月、高校を卒業してまもなく、父の運転する車で兵庫県の田舎から都留市に向かいました。大変遠かったのを覚えています。下宿先に到着した後、大家さんに挨拶をして荷物を降ろすと父はすぐに帰っていきました。

私は部屋に戻り一人になったとき、とても不安になりました。二階からは学生の声が響き、「ああ、大学生になったんだな。」と実感したものでした。

夕方になると、二階の学生の方が、「夕食に行くから一緒に行きますか。」と声をかけてくださいました。食堂は確か南城（なんじょう）とか城見屋（しろみや）とかだったと思います。銭湯にも連れてってもらいました。きっと、新入生だから気を遣ってくださったのだと思います。

大学生活が落ち着き始めた頃、何人かの同級生と吹奏楽部を立ち上げようという話がもち上がりました。私は楽器を触ったことがありませんでしたが、みんなで演奏することが面白そうだったのでその案に賛成しました。こうして、自前の楽器しかない小さな吹奏楽同好会が誕生しました。翌年の新入生歓迎演奏では、まだドラムが無かったので段ボール箱を叩いて部員募集をしました。また夏休みには全員でアルバイトをして楽器を徐々に増やしていきました。そんな活動を通して、なんでも話せる仲間ができたこと、苦手だった音楽が好きになったことなど大学生活は大変有意義なものになりました。

アルバイトは、富士急行バスの添乗員として新宿西口から富士山五合目までお客さんを引率したり、河口湖のゴルフ場でキャディーバッグを担いだりしました。みんな懐かしい思い出です。

都留文科大学は4年間で無事卒業でき、中学校英語1級免許と小学校2級免許を取得しました。当時は英文科在籍でも小学校の免許を取ることができました。小中二つの免許があるというのは、教員になってから随分役立ちました。さらに、早稲田大学英語英文学専攻科に入り高校の専修免許を取りました。

## 教師となって

昭和48年4月、兵庫県教員に採用され中学校に赴任しました。大学の後輩も同時に採用されて共に勤務することになり、とても心強く思いました。大学時代、「石を投げたら 兵庫県人に当たる」と言われていたくらいで、教師になっても周りには大学の先輩や後輩が沢山おられました。教諭・教頭・校長時代には、それぞれにご指導やご支援をいただいたものです。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

## <へき地教育>

平成4年、勤務する小学校が全国へき地教育研究大会の発表校となり、教職員と地域住民が一体となった取り組みを推進しました。「人」「自然」「文化」とのふれあいや様々な体験活動を通して、心のふろさとづくり・心豊かな人づくりをめざしました。このときの合言葉は、「教育の原点は へき地にあり」で、以後、私の教師生活の根幹を成すものとなりました。

この全国へき地教育研究大会からまもなく文科省も体験活動を重視した教育の展開に着手しました。体験を通して豊かな心・生きる力が育っていくという学習文化が生まれました。へき地教育の真髄が全ての教育の核になろうとしてきたように感じました。

現在は、子どもを取り巻く環境が大きく様変わりしていますが、平成4年当時の取り組みを懐かしく思う今日この頃です。

## 私の夢

私のささやかな夢は、日本画を基礎から学んで地域の魅力を発信できる絵を描くことです。大学時代から日展を鑑賞したり、アトリエという美術月刊誌を読んだりして自己流の絵を描いていました。そして、定年退職を機に余暇を日本画の制作に充てることにしました。日本画なら京都でという思いもあって、京都の芸術大学で学びました。毎週土曜日になると、絵具セットを背負って何年も通い続けました。現在は、日展で活躍されている姫路の先生に指導を受けています。今では数多くの作品が美術展で入賞するようになりました。また地元の美術協会役員として、地域の文化活動に少しは貢献できるようになったと思っています。

以上、私の歩んできた道を述べさせていただきました。大学はキャンパス整備計画が進んでいるようで、ますますの発展を楽しみにしています。

事務局長奥脇美穂さんは、私の教え子で素晴らしい人材です。これからもご活躍されることを祈念してペンを置きます。



## 3年連続で書面総会を実施しました

北海道支部長 北田 則章

8月に支部創立51周年の総会を予定していましたが、コロナ禍「第7波」の真っ只中だったこともあり、今回も対面総会の開催を断念し、各会員宅へ総会議案書を郵送する書面形式で実施しました。議案に対する異論などは特になく、何とか総会を終えることができました。

定例の役員会は3回実施したものの、出席者が最多でも3名止まりとなり、役員者の意思疎通が図れないため支部活動が滞る状況に陥っています。特に、現職者の役員は、学校現場の多忙さから全く出席できませんでした。役員への補充も、なかなか進んでいません。

そんな中、令和4年春の叙勲において、当支部顧問の横山勲さんが「瑞宝小綬章」を受章されるという朗報が入りました。早速、支部から、祝電と記念品をお送りしました。

第52回総会・懇親会・講演会は、令和5年8月5日(土)に札幌市の「ホテルライフポート札幌」で開催すべく、会場を仮押さえています。北海道のコロナ禍は「第8波」に入り、11月には遂に5桁台の新規感染者数が記録されました。コロナ禍の終息は全く見通せませんが、リスクを覚悟の上で対面総会を実施するという選択肢も考えておく必要があるかもしれません。

## <令和4年度～令和5年度役員>

|       |                |       |
|-------|----------------|-------|
| 支部長   | 北田 則章 (昭和56年度) | 英文)   |
| 副支部長  | 山本 洋嗣 (昭和55年度) | 国文)   |
|       | 中村厚喜夫 (昭和52年度) | 初等教育) |
|       | 河原 範毅 (昭和56年度) | 英文)   |
|       | (未定)           |       |
| 事務局長  | 大花 学 (昭和60年度)  | 国文)   |
| 事務局次長 | 照山 秀一 (平成元年度)  | 英文)   |
|       | 桜田 琢 (平成8年度)   | 社会)   |
| 会計    | 神野 昌代 (平成4年度)  | 国文)   |
| 会計監査  | 西山 肇 (昭和40年度)  | 初等教育) |
|       | 井口 郁将 (昭和50年度) | 国文)   |
| 事務局員  | 吉田 俊介 (平成25年度) | 英文)   |
|       | 赤間 圭城 (平成25年度) | 国文)   |
|       | (未定)           |       |
| 顧問    | 日下 功 (昭和32年度)  | 初等教育) |
|       | 熊谷 勲 (昭和38年度)  | 国文)   |
|       | 当銀 誠博 (昭和39年度) | 初等教育) |
|       | 横山 勲 (昭和40年度)  | 国文)   |
| 本部理事  | 加藤 佳栄 (昭和55年度) | 英文)   |
|       | 北田 則章 (昭和56年度) | 英文)   |

## 青森県支部設立5年目 コロナ禍であっても

青森県支部長 遠藤 ゆみ子

青森県支部では、支部設立5周年を迎えましたが昨年同様、第5回都留文科大学同窓会青森県支部定期総会・懇親会中止とし、定期総会での審議事項(決議)については、書面決議としました。また、役員任期満了による役員改選についても、総会で決議しなければならぬため、今年度も現役員の任期を1年延長し、次年度総会において、残期1年間の議案審議を執り行わさせていただくことにしました。

コロナの蔓延で人々の生活様式は一変し、仕事場に行かず在宅で仕事をしている人、また、家と職場の行き来だけで人との繋がりが少なくなっている人など多いと思います。しかし、こんな時代だからこそ、人との繋がりが大切だと考え、昨年度、会員の皆様からメッセージを集め、メッセージ集を発行しました。ありがたいことに、15名の方からメッセージが寄せられ、会員の皆様へ配付することができました。何もできない時だからこそ、何かできることをとて始めたメッセージ集でしたが、思った以上に反響は大きく、配付後メッセージ集への感想が10通近く寄せられ、やってよかったなと、心から思いました。また、メッセージも、感想も、一通一通届くたびに幸せを届けてもらい、支部長としての役

得に嬉しさを感じました。そして、私たち都留文科大学卒業生は遠く離れていても心は密でいられると思う瞬間も味わうことができました。

予想だになかったコロナ禍ではありますが、一方では「大切なもの」を見直す機会を与えられたという見方もできるのではないかと思います。

今年度も、メッセージ集第2号を発行するため、着々と準備を進めています。コロナ禍であっても人とのつながりを大切にしながら今後も細々ではありますが、活動を続けていきたいと思っています。



※会員を募集しています。加入希望の方は遠藤までご連絡ください。  
【携帯】  
090-6457-1608

## この3年間『動かざること山の如し〜!?!』

岩手県支部長 高橋 節夫

この暗くおぞましいコロナトンネルは、いったいいつまで続くのか? 残念ながら、岩手県支部ではこの3年間、役員会も総会も開催できず、活動らしきものは途絶えたままでした。コロナの感染状況を見つ、「収まってきたらやるべしな」を合言葉にすべく機を窺っておりましたが、逆に「繰り返すばかりじゃ」という辛い見通しが立ってきたことから、業を煮やした〇〇さんを中心として過日遂に役員会を開き、以下の3点を確認しました。今後、650余名の支部会員へ周知を図って参ります。

### 【確認事項】(案)

- 1: 岩手支部会員の近況・情報収集への着手  
⇒ 次回の「支部総会資料」に掲載する
- 2: 令和5年度に「岩手支部総会」を釜石市で行う  
⇒ 午後1時設定し、総会前に「研修会」をもつ  
⇒ 研修会場を「いのちをつなぐ未来館」とし、OBで語り部の川崎杏樹さんにご協力を頂く
- 3: 支部役員は令和5年度まで現組織のまま継続  
⇒ 活動実績なく、もう1年やらせて下さい!

### 【都留文科大学同窓会岩手県支部役員】R元年度～

- ◆顧問 問: 司東節子 S38 初、高橋一臣 S39 初、  
穴戸英明 S40 初、堀籠智志 S53 国・柔道、  
小山田厚 S55 国・少林
- ◆会長: 高橋節夫 S57 英・空手
- ◆副会长: 小山田厚 S55 国・少林、千葉新也 S56 初・特編
- ◆事務局長: 相墨 純 H3 初・軽音
- ◆事務局員: 伊藤昌俊 H1 国・送球、滝澤真貴子 H6 初・籠球
- ◆理事 事: ○盛岡: 吉田文明 S55 国・IH  
○中部: 門屋なつみ H1 国・  
○県南: 加藤綱代 S55 英・児文  
○沿岸: 山名秀樹 S55 国・籠球  
○県北: 山名花苗 H28 社・ソフト  
○高校: 安藤裕之 S63 国・卓球
- ◆監 事: 小山奈美子 H5 初・管楽、丹百合 H5 初・管楽



【都留大同窓会岩手支部役員会 R4.12.3】

## 活動の復活とその充実を目指して

宮城県支部長 片岡 有吾

今年3月に都留大同窓会事務局より連絡があり、「同窓生・キャリアサポーターとのオンライン懇話会」が行われました(5月14日)。学生2名とリモートで情報交換、そして教員採用試験についてのアドバイス等を行うことができました。リモートとはいえ、2年ぶりに現役学生と接点を持つことができました。

それを踏まえ、3年ぶりに教員採用試験研修会を開催しました。講師は、宮城支部の役員を中心に行いました。宮城支部が長年取り組んできた活動の1つが、こうして再開されることの意義と後輩を支援していこうとする重要性を改めて確認することができました。

宮城支部総会並びに懇親会開催について、現時点で来年(令和5年)2月に開催する方向で、役員会を中心に進めております。このように、これまでのブランクを取り戻しながら、宮城支部の活動も充実させていきたいと考えております。

## 【教員採用試験研修会についての連絡先】

(メール) yugo5042@gmail.com

片岡までお知らせください。

## 〈令和4年度役員〉

|         |        |       |       |       |
|---------|--------|-------|-------|-------|
| 名誉会長    | 鎌田光彦   | 鎌田 清  |       |       |
| 参 与     | 小野俊次   | 千葉龍正  | 菅野俊雄  | 菅原義之  |
|         | 伊藤常治   | 坂本忠厚  |       |       |
| 大学同窓会理事 | 鎌田 清   | 片岡有吾  |       |       |
| 支 部 長   | 片岡有吾   |       |       |       |
| 副支部長    | 廣瀬清文   | 馬場純子  | 一條良介  | 市川人士  |
|         | 千葉睦子   | 及川恵子  | 片岡明恵  | 菅原佳江  |
| 事 務 局   | 〈事務長〉  | 菅野俊雄  |       |       |
|         | 〈副事務長〉 | 高橋克己  | 斎藤竜一  | 浅井理香  |
|         |        | 高野 剛  | 熊谷拓郎  | 大庄司華菜 |
| 会 計     | 横山英実   | 小野寺直美 | 伊藤ひろみ | 杉浦瑞穂  |
| 地区役員    | 【仙台市】  | 蓮沼秀行  | 菅原 崇  | 佐藤文栄  |
|         | 【仙 南】  | 伊藤久美子 | 佐藤幸光  | 馬場純子  |
|         | 【仙 台】  | 高橋克己  | 吉田準子  | 斎藤竜一  |
|         | 【大 崎】  | 清水 進  | 伊藤 稔  | 市川人士  |
|         | 【登 米】  | 佐藤 純  | 及川恵子  |       |
|         | 【栗 原】  | 岩瀬和男  | 後藤咲織  |       |
|         | 【石 巻】  | 高清水美枝 | 杉浦瑞穂  | 片岡明恵  |
|         | 【気仙沼】  | 小野寺直美 | 千葉慎一郎 | 菅原佳江  |
| 研 修 部   | 〈部 長〉  | 一條良介  | 〈副部長〉 | 市岡良庸  |
| 監 事     | 横山貞夫   | 佐藤幸光  | 相澤光信  |       |

## 「べにばな会」として集えることを願って

山形県支部長 原田 清一

山形県支部「べにばな会」は、設立30周年総会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため延期いたしました。昨年の11月に理事役員会を開催し、活動報告ならびに役員改選などの議決を行いました。

同窓生の交流が支部同窓会の大きな役割と考えています。

山形県は大きく4つの地区に分かれており、各地区の理事により役員が構成されています。私は庄内、鶴岡市に住んでいますが、都留大同窓生と知ると話し込み、懐かしい話が続きます。理事会でも、大学駅前の変わりように驚き、谷村町駅や十日市場駅あたりの下宿の話で盛り上がります。鮮やかに思い出がよみがえるとともに明日への活力となるようです。

役員改選を行い、令和5年度は新たな役員体制で運営していきます。新旧交代を進め、同窓生相互の交流を可能な限り実現したいと考えます。今年度始めは、県内の名簿の整理とハガキによる事業報告を進めてきました。令和5年11月には、昨年度実施できなかった31周年総会を実施する計画をしています。また、宮城県支部との交流も近年控えてきましたが、再開できることを楽しみにしています。

コロナ禍の中でどのように活動できるか不確定な時節が続きますが、with コロナの時代として対策を整えながら、同窓会員や現役学生と集い、近県同窓会ならびに同窓会本部との交流ができるようになることを期待して活動を進めていきたいところです。

## 【令和5年度べにばな会役員】

|        |      |      |      |
|--------|------|------|------|
| 顧 問    | 武田茂行 | 会 長  | 渡邊 隆 |
| 副 会 長  | 佐藤敏幸 | 会計監事 | 原田清一 |
| 村山地区理事 | 小川秀人 | 鈴木雄二 | 白林和夫 |
| 最上地区理事 | 武田茂行 |      |      |
| 置賜地区理事 | 神尾正俊 | 佐藤英樹 | 中條秀基 |
| 庄内地区理事 | 奥山広幸 | 野口利明 |      |



## 栃木県支部設立4年目、「ちむどんどん」する活動へ

栃木県支部長 平野 見一

栃木県、そして全国の同窓生のみなさん、こんにちは。令和元年8月31日に全国41番目の支部として設立されてから4年目を迎えました。今後も支部会員をはじめとした全国の同窓生の皆様のお力添えをいただければ幸いです。

昨年6月、NHKの歌番組で「中央フリーウェイ」の曲紹介の際、次のお便りが読まれました。同世代の私には大変懐かしいものでした。みなさんは？

## ◆大阪府 ビール腹さん(60代・男性)◆

山梨県都留市の大学に通っていた学生時代、当時の都留は田舎で刺激も少なく、週末には決まって仲間と車で東京まで遊びに行ったものです。東京からの帰り道のBGMは決まってこの曲！調布あたりを通過するちょっと前からこの曲をかけてはジャストタイミングで車の中で大合唱したものです。その後、当時の仲間のある者は「右に見える競馬場」に通い詰めて散財したり、「左はビール工場」の会社に就職したり…みんなどうしているかなあ。ああ青春は遠くなりにつけり。

「ああ都留は遠くなりにつけり、ああ支部は遠くなりにつけり」とならないよう「ちむどんどん」する支部活動をしていき

いものです。

4年目の事業では、支部設立以来初となる参集しての役員会を開催することができました。コロナ禍の中、役員の皆様ありがとうございました。

最後になりましたが、都留文科大学と都留文科大学同窓会のますますの御発展と全国の同窓生の更なる御活躍をお祈りいたします。

※「ちむどんどん」はNHK連続テレビ小説のタイトルですが、沖縄方言で「胸がわくわくする気持ち」を表すそうです。

※写真は昨年6月に開催した役員会の様子です。

## ◆役 員◆

※理事は省略させていただきました。

|       |           |
|-------|-----------|
| 支 部 長 | 平野見一      |
| 副支部長  | 柿沼裕子 磯 佳子 |
| 監 事   | 菱沼 孝 齋藤初代 |
| 事務局長  | 赤羽喜代美     |

※栃木県支部に新たに加わりたい方、興味・関心がある方は、平野まで御連絡ください。

平野見一

【携帯】090-4662-1944

【メール】hira3ken3@hb.tp1.jp





## コロナ禍であってもできる取り組みを

群馬県支部長 齋木 雄造

群馬県支部では、感染対策を徹底し、高崎市労使会館を会場として令和4年8月20日に群馬県公立学校教員採用試験第2次選考で実施される個別面接・集団面接に向けた学習会を開催することにしました。当支部の役員は、県内の学校教育の状況に詳しく、それぞれの勤務経験に基づいて適切な助言が行えますので、この利点を生かすことによって本県の教職を志す学生のみなさんを積極的に応援しようと開催を決めたのが今回の学習会でした。

そこで、大学のキャリア支援センターへ依頼し、該当の学生のみなさんへ開催案内を配布していただくことにしました。しかし、締め切り日としていた8月15日になっても申込みのメールは届かず、翌日、やむなく学習会開催の見送りを決め、会場の予約もキャンセルしました。

このように学習会を行うことはできませんでしたが、中には第2次選考を受ける学生のみなさんがいるかもしれないと考え、再度、大学のキャリア支援センターへお願いし、支部作成の学習資料を該当のみなさんへ配布していただきました。

9月26日、私用で都留市を訪れた際、キャリア支援センター課長補佐長坂美和様にお目にかかり、今回お世話になったことのお礼と今後のご協力についてお願いをしまし

ました。帰路、キャンパスに向かう学生のみなさんは一人一人輝いて見えました。

### 〈群馬県支部役員〉

|      |             |             |
|------|-------------|-------------|
| 顧問   | 角田達夫(昭50英)  |             |
| 支部長  | 齋木雄造(昭53国)  |             |
| 副支部長 | 原 俊明(昭60英)  | 土屋 勇(昭58英)  |
| 事務局長 | 島田実恵子(昭45初) |             |
| 監事   | 金沢和子(昭55英)  |             |
| 庶務   | 池澤博子(昭57初)  | 安藤貴子(平6 初)  |
|      | 江原悠一(平11英)  | 古川 整(平12社院) |



久々の都留文科大学にて

## 偉大なボランティアの力

千葉県支部長 川名 和則

令和元年9月、千葉県内を襲った房総半島台風と同年10月の大雨被害から3年が経過。暴風による倒木で送電線が切断され、大規模停電などの被害を受け12名が死亡。台風からの復興に向けて進みかけた矢先の大雨で更に12名、計24名の命が奪われた。一宮川が流れる茂原市では、3,000棟以上の家屋が浸水。自身も山の倒木被害を受け、その処理に時間を要した。館山市や県南部の過疎・高齢化が進んでいる地域では、築年数の古い家屋の屋根が飛ばされ、長年暮らした家を手放す方が増えている。

この3年間、同窓会本部・各支部会員や多くの一般ボランティアの方々の心温まるご支援と勇気を戴き、現在は、それぞれの立場で着実に復興が進んでいる。

2011年3月の東日本大震災もそうであったように、日本の復興を支えているのは、行政は勿論のこと、『ボランティアの方々の力』と考える。被害の甚大さを風化させないためにもこれらの経験を教訓として捉え、今後いつ起こっても不思議ではない地球規模の現象に対策を講じながら次世代に伝えていくことが課題だ。

さて、千葉県支部では、『現役大学生への教員対策研修会』を、3年ぶりに実施することができたが、例年のような集団での宿泊研修は避け、リモートによる個人指導と自宅から通える受講生を受け入れての開催となった。少人数参加であったが、皆、二次試験を突破し来年度の採用名簿に登録されている。特に、県支部顧問の野田純先生には会場の手配を含め、ご尽力いただき、この場をお借りして感謝申し上げます。

## 3年ぶりに開いた「富山県支部の集い」

富山県支部長 城岸 毅

本来ならば令和3年度に行うべき支部総会をコロナ禍のために1年延期し、令和4年度に行いました。

リモート開催という案も出ましたが、「3年ぶりだし、是非会員の顔を見たい。」という意見が後押しとなり、「総会」とせず「富山県支部の集い」という名称で、令和4年8月27日に開催しました。

活動報告の後の都留文科大学の紹介動画を視聴では、新しい校舎・学生食堂、学科の拡大等、大学の大きな変貌に参加者は驚きと感動を味わいました。

恒例の記念講演は、「黒部の古文書を読む会」会長の飯村滋先生(昭44年度初等教育学科卒業)による「日本三奇橋愛本刎橋の魅力」と題した、80分にわたる大変興味深いお話でした。

愛本刎橋の完成に至るまでの歴史、奇橋とされる構造の巧みさ、工期の短さ等、現存はしていないものの、富山県の誇りとその魅力を感じるお話でした。

ご存じとは思いますが、錦帯橋・愛本刎橋、猿橋が日本三奇橋であります。学生時代に都留に住んでいながら、「猿橋」を見に行っていなかったことを今頃後悔した次第です。

会の後半は、コロナ感染に配慮し、ノンアルコールでの食

次に「コロナ禍で奮闘している学校の様子」を今年度も紹介させていただきます。

### 一 『教員免許更新の廃止』

教員不足は子供たちの学びの質の低下に直結しており、現在、長時間勤務といった厳しい労働環境が教員希望者を遠ざけている。7月、教員免許更新制が廃止され、教員を続けるための30時間講習はなくなり、教員を目指す環境が整いつつある。

### 一 『専任講師の配置』

千葉県は今年度、専任の非常勤講師や外部指導者を小学校に配置する独自の新規事業を開始。指導者を充実させて小学校の学力向上を目指すほか、担任の負担を減らして働き方改革に繋げる狙いである。

### 一 『学校行事の精選』

この2年間、ほとんどの行事を開催できなかった。今年は、柱となる学校行事を今のところ、実施できている。行事削減が叫ばれている中でも、児童・生徒の豊かな成長には「学校行事」は必須である。

結びに、明日を担う子供たちが「元気で学習できる環境の場」が整うように、コロナやウクライナ問題の終息を切に願う次第である。

写真：3年ぶりに開催された  
体育祭(中学生)



事会としました。しかしながら、黙食とはならず、思い出話と近況報告に花が咲いた食事会となりました。

集いの様子をリモートで配信したところ、都合で参加出来なかった会員の方々に、大変喜ばれました。

最後に、2年後にはコロナ禍が収まり、多くの会員が誘い合い、胸を張って総会に参加できることを祈念して、集いを閉じました。

主催する立場の者として、感染リスクをいかに押さえるかに悩みましたが、会場スタッフの方々のご配慮もあり、無事集いを終えることができたことに感謝いたします。





## 石川県支部設立20周年の総会を開催

石川県支部長 谷内 誠一

令和4年11月19日に金沢市KKRホテルにて、都留文科大学同窓会石川県支部の総会を開催しました。コロナの感染拡大により2年間総会を開くことができませんでしたが、今年は石川県支部設立20周年となる記念すべき総会となりました。34名の会員と大学より藤田英典学長、河端雄一同窓会長を迎え、大学の今後の目指すビジョンや学生達のすばらしい活躍の様子などについてお話を聞くことができました。学生達のめざましい活躍を頼もしく感じると共にこれからの新しい都留文科大学像を想像してワクワクする思いでお話を聞きました。また総会恒例のミニ研修会では「活躍する同窓生」というテーマで現金沢市教育長の野口弘氏より講演をして頂きました。これまでの金沢市の学校教育における斬新な学校教育の実践内容や構想について熱い思いを語って頂きました。現在の学校教育の課題を的確に捉え、学校現場の諸課題に対峙しながらもスケールの大きな視野からの学校づくり・人づくりの考え方をとても興味深く傾聴させて頂きました。総会後の懇親会では、石川県支部の20年間の歩みが紹介されました。先輩の皆さんの地道な取り組みに感謝し、これからも石川県支部同窓会の活動推進のために努めていく思いを新たにしました。石川県支部の活動の大きな柱は、会

員相互の親睦と学生達の支援を通して微力ながら大学を応援することです。本県の教員志望の学生達の支援では確実に成果を上げている反面、会員の高齢化が進み新たに同窓会の活動に参加してもらえない会員の確保が十分でないという課題も抱えています。現在、石川県支部では600人あまりの同窓生がいます。会員一人一人の地道な声かけによって組織強化と活動の充実のためにがんばっていくことが確認されました。総会の締めくくりに都留文科大学合唱団出身の二人の指揮により、参加者全員で学生歌「花のかげ」を合唱しました。



## コロナ禍でもつながりたいという思い

福井県支部長 佐藤 康裕

令和2年度から、同窓会「城山会」総会・懇親会が新型コロナの影響により、中止を余儀なくされています。今年度のはじめ、一部の会員の方から「今年はぜひやってほしい」というお声をいただき、役員の方々に計画したいとお伝えした途端、感染者が激増。今年度も開催を断念しました。

役員の任期は2年。でも何もしいまま引き継ぐのは淋しいという思いから、もう一年このままの役員で務めさせていただくことになりそうです。

11月の理事会では、9名参加の楽しい有意義な懇親会も含め、昔話に花を咲かせました来年度の総会・懇親会の時期や内容、会員名簿・会員勧誘等の話題も出て今後の城山会の在り方にまで話が及びました。

懇親会後の記念撮影、早く会員の皆さんといろんなお話ができる日がやってくることを祈って、屋外の恐竜のモニュメントの前で笑顔でパチリ。

### 【令和4年度役員】

|     |           |     |           |
|-----|-----------|-----|-----------|
| 会 長 | 佐藤康裕      | 副会長 | 後藤慎吾、山本貞郎 |
| 監 事 | 福田 修、丸山繁喜 | 庶 務 | 渡部和也      |
| 会 計 | 酒井晴美      | 顧 問 | 吉岡恒雄      |

## 大学・そして人とのつながりを

長野県支部長 市場 香代子

長野県支部ではこれまで同窓生会員名簿の更新と県内4地区を1年ずつ順番に回りながらの同窓会総会を開催してきました。コロナ禍の中で総会は開催できないままになっていますが、卒業生の皆さんを加えた名簿の作成を行っている最中です。

また今年は後輩のお役に立てるようにと、大学からご依頼のあった「同窓生・キャリアサポーターとのオンライン懇話会」に参加しました。参加した方から以下にその時の様子を記していただきました。

### 「同窓生・キャリアサポーターとのオンライン懇話会」に参加して

令和4年5月14日、都留文科大学キャリア支援センター主催のオンライン懇話会が実施された。「『教員』を希望する学生が一人でも多く教職に就けるよう、教員採用試験のアドバイスや都道府県別の採用試験の対応について今後の受験対策に活かすこと」が目的であった。現任教員の立場からお話をする機会をいただいた。当日は長野県教員採用試験を様々な校種で受験する

私自身、大学卒業後一度しか訪れていない都留。来年度こそぜひ会員の皆さまと一緒に訪れ、あの頃の思い出に浸りたいと思っています。世代を超え、大学時代の思い出を語り合える仲間。このつながりはかけがえのないもの。来年度は、コロナ禍前の活動に戻すための模索・実行の1年になるよう、役員一同力を合わせ、運営していきたいと考えています。



予定の6人の学生とオンラインで繋がり、お互いの取組や志望動機を紹介し合い、顔が繋がって大学で直接情報交換できるようになった。

「長野県教員育成指標」や「令和5年度採用長野県教員採用選考の変更点（案）」「令和5年度公立学校教員募集案内・採用選考要項」など紹介したが、どの学生も既に目を通してあるようで頼もしく思えた。学生たちは、身内に教員がいたり小中学校・高校での目標となる先生を持っていたりして、教職の苦勞もやりがいも理解した上で受験しようとしていた。来年度4月より、県内のどこかで教職の一步めを踏み出してくれることを願っている。

上伊那郡飯島町立飯島小学校長 塚田琢磨  
(S63 初等教育)

大所帯の同窓会ゆえ小回りのきく活動ができにくい状況ですが、人と人のつながりを大切に支部の活動を継続していきたいと思っています。



## 平和を願って・・・

静岡県支部長 白井 泰

今年も新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、同窓会理事会等も中止、悶々とした日が続いています。そんな中、ロシアのウクライナ侵攻。ほんとうに驚きました。数ヶ月で収まると思いきや、半年以上続き、世界中にいろいろな面で影響を与えています。コロナも小康状態に入りましたが、また第8波、今後どうなることやら。早く収束してほしいですね。

さて、今年は静岡支部では総会等の中止を機に、会員の情報を交換する手段として、県版会報誌を作成することに致しました。名簿上 1600 名以上を数える本県ですので、どのような会報誌を作っていくかが、今後の課題です。すでに鬼籍に入られた方の把握も十分ではありません。会員の皆様からのご意見・お考えをお聞かせください。下記連絡先にご連絡いただけると有り難いです。

ところで、昨年は日米開戦 80 年、今年は沖縄復帰 50 年等各種メディアでもいろいろと戦後未解決の問題が取り沙汰されました。それに加えて、ロシアのウクライナ侵攻、ミャンマーの軍事クーデター、中国・台湾の問題、北朝鮮のミサイル問題・未解決の拉致問題、旧統一教会問題等々様々な国際問題、社会問題が取り上げられています。戦後生まれの我々は、何を、どう考えていったらよいのでしょうか。『戦争

は女の顔をしていない』(スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ)を読んで、ロシア・ウクライナ問題は簡単には解決しないかもしれないと思いました。しかし、戦争で破壊された人の心・建造物等の映像を見ると、戦争は絶対してはいけないと思います。ましてや、核戦争は絶対してはいけません。原子力発電も私は反対です。個人的意見で申し訳ございません。

日本だけでなく地球全体、環境の問題もエネルギーの問題も全て生命につながっています。生命の大切さをどう伝えていくかを、そしてこれからの令和時代をどのように生きていくかをしっかり考えていきたいと思います。

最後に、これから現役の学生の皆さんがコロナに負けずに勉学にいそしみ、卒業してからも全国各地でそれぞれ活躍されますことを心より祈念申し上げます。

〈連絡先〉西部・大場孝純 053-835-4779  
中部・江川初枝 054-292-2231  
東部・星屋 康 090-1289-0902  
白井 泰 090-2185-8147

## 愛知県支部(県富岳会)この一年

愛知県支部長 水野 修司

今年度も新型コロナウイルス感染症のため、県内7地域で研修会や懇親会などがほとんど実施できませんでした。

その中でも、教員採用選考試験を受験する学生を対象に、学習会を開催しました。今年度は、大学に集まって対面で行う模擬面接試験体験会がオンラインで5月14日に開催となりました。愛知県は受験希望者1名でした。例年6月に、愛知県・名古屋市教員採用試験を受験希望する卒業生・学生を対象に1次試験対策学習会を開いています。今年もZOOMを使って行いました。また、8月13日には教員採用選考2次試験を受験する学生を対象に学習会を開き、各地域から校長を講師として迎え対面で行いました。

愛知県支部では毎年12月に各地域が交代に主催して地域交流会を開いてきましたが、この3年間実施できていません。来年度は東三河主催で行いたいと考えています。

地域交流会の他に、5年に一度愛知県支部(県富岳会)総会を実施しています。2000(H12)年に第1回が開かれ、2005(H17)、2010(H22)、2015(H27)と続きました。歴代の学長、金子博氏、加藤祐三氏、福田誠治氏や、卒業生である参議院議員輿石東氏や、岡崎市教育長高橋淳氏を来賓として招待しました。第5回は2020(R2)年に開催予定でしたが

新型コロナウイルス感染症のため延期になりました。その後順延が続き、2025(R7)年に開催することになりました。

10年ぶりの開催なので、盛大な会になるように準備を進めていきます。

## 【令和4年度支部役員】

支部長 水野 修司(名古屋 61 英文)  
事務局長 加藤 由恵(3 初教)  
地域幹事 名古屋 美頭 伸洋(H10 初教)  
尾 張 川村 良司(61 英文)  
知多・海部 富田 崇(H13 初教)  
西三河 金丸 和章(H15 初教)  
豊田・みよし 溝口千恵美(63 初教)  
新城・設楽 石田 浩三(H10 初教)  
東三河 田村 圭司(63 初教)

## 滋賀県支部 第10回支部総会と懇親会を中止

滋賀県支部長 松嶋 孝雄

今年度こそはと、8月中旬に事務局長様はじめ役員の方々と、総会の実施予定をしていました。コロナ患者への考え方・態度も大きく変化してきたとはいえ、「会の実施が、クラスター発生の場となることがあってはならない。」「滋賀県の同窓会員の方一人一人が、大変な努力によって築いて来られたものが、灰燼に帰す一因となるようなことがあってはならない。」という思いもありました。最悪の事態を想定し、判断をすることが立场上必要では無いか。こんなことをいろいろ頭の中で描いて葛藤しました。私の中では今年度も中止した方が、ベストの選択に違いないという結論に行き着きました。支部役員の方々にお諮りし、同窓会総会及び懇親会を中止することになりました。事務局長の齊城勝美先生には、そのことにより、多種にわたる文書を作成してご対応頂きました。大変お世話になりました。

思い返しますと、会結成に当たっては、初代事務局長の村田良文先生にご尽力頂いたことが思い出されます。本会の会員の方には、「事務局長の齋木勝美先生のように、退職後県内S大学の学生課に勤務される。」「また「清水一範先生は県の人事担当の職を経て学校長の職にあります。」コロナが去り実施することが叶えば、同窓会の活動が、県人学生の進路選択に寄与するものになり得るのではと、老人の儂い糠喜びとは言えども、微かな光明が見えた思いがいたしました。

余談にはなりますが、高齢のためいよいよ断捨離をと身の回りの整理を始めました。輿石東氏が、同窓会長の時に発行された同窓会

名簿が出てきました。50年以上前の懐かしい兵庫県の同級生、小東正敏君の名前が目に付き、電話をしてみました。意気投合し、小一時間も話し込んでしまいました。近日、私の住まいから、10分間程のところにあるホテルに宿泊するということでした。早速、私の教え子のレストランで、会食することが約束できました。孔子曰く、朋有り遠方より来る・・・のレベルには該当しないかもしれませんが、同窓会存在の素晴らしさを実感した出来事でした。本部の歴代同窓会関係者の方々・事務局の方々が、誠意を持って活動して頂いているおかげであると思います。本当に有り難うございます。

## 令和4年度 滋賀県支部役員

支部長 松嶋 孝雄(昭和46年度初卒業)  
副支部長 大澤 裕(昭和56年度国卒業)  
会計監査 塩屋 勝志(昭和57年度初卒業)  
鳥飼 雅一(昭和63年度初卒業)  
事務局長 齊城 勝美(昭和59年度初卒業)  
事務局 大橋 雅子(昭和57年度初卒業)  
中村 雅昭(昭和58年度初卒業)  
村田 良文(昭和58年度初卒業)

## 活動はできなくても今年も会報発行

京都府支部長 枅谷 雄三

2年間コロナ禍のため総会及び懇親会ができませんでした。役員へのアンケートをとったところ、みんなもう1年がまんしようということになりました。2023年はぜひ集まりたいと思います。

活動はできていませんが、『城山・桂川だより第11号』は、ページ数減になる(2ページ立て)けれど、発行しようということになりました。(写真)

「教員採用模擬面接試験体験会（オンライン）」に副会長が参加した様子を書いて頂きました。京都の教員採用試験を希望する学生さんは2人でした。最近はオンラインでこのような懇談会・研修会ができるので時代は変わっているなあと感じます。以前に都留大で学生さんと直接向かい合っているいろいろな話をしたときのことを思い出しながら記事を読ませてもらいました。そのお便りを今年もまた、11月の日曜日に石清水八幡宮の近くの喫茶店に5人が集まり発送作業をし、260人の会員に郵送しました。作業をしながら、最近の学校の様子、政治のこと、都留での思い出、都留市へみんなで行きたいねなどの話に花を咲かせました。

2023 年は、京都北部で総会が開催できることを祈りつつ。

【京都府支部役員】

相 談 役 酒 井 好 治 (S45年卒)

支 部 長 耕谷 雄三 (S45年卒)

副支部長 北村 友子 (S49年卒)

事務局長 草野 真 (S50年卒)

[illegible]

## 同窓会～ほっとする場所～

大阪府支部 小 林 治

都留文科大学の4年間、本当にいろんなことがありました。懐かしいと思っていただきたく書きましたが、個人的な話で恐縮します。

18の春、大阪で試験を受け、入学の案内をいただき父と降り立った谷村町の駅。山梨県出身の父は「これもご縁だなあ。」と話していたのを思い出します。生まれて初めての山梨県、父の言葉通り、本当にたくさんの出会いがありました。

黒部荘、風來坊、バレーボール部、地理ゼミ、和田明子先生、感謝しかありません。桂川祭でのギター演奏、新聞配達、プールの監視、夏休みにアルバイトを頑張りすぎて入院したこと、押し入れの鉄道模型、こたつの上の凍ったコップの水や風呂上がりのに凍った髪の毛。「寒かったなあ。」本当にたくさんのお思いです。長かったよなあという間だったような、不思議な時間の流れでした。

今年、定年退職後再任用の4年目になります。転勤し今の職場でも同窓の皆様のご縁に驚いております。卒業後も、今に至るまで、同窓の皆様との多くの交流が続いており、新たな出会いもたくさんありました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ流行、突然の休校から3年、あちこちで大変なご苦労があったことと思います。集まっていた宴会や交流が、かなわなくても同窓会の仲間で声をかけ合い、連絡を取り合い、元気を集めて明日へと向かうことができるかと思っています。今こそほっとする場所、同窓会の力をお借りしてコロナを乗り切っていきたいなと思います。

大阪支部の旗ができました。紹介させていただきます。お披露目の会をぜひ開きたいと思っております。ご連絡をお待ちしております。



## 教員を目指す卒業生へ

兵庫県支部長 高谷 和久

「東に富士の霊峰を仰ぎ、西に桂川の清流を臨む我が都留文科大学」は、私の第二のふるさとであります。

早いもので、私が都留文科大学に入学したのが、昭和40年4月です。しかし、その当時は、全国各地で大学紛争が起り、我が大学も紛争真っ只中で、ハンガーストライキ、同盟休校によって入學式もなく、一体どうなるのだらうと毎日不安な思いで過ごしていました。

ただ、その中で、先輩に教えられたものが麻雀でした。

同盟休校が終わり、やっと授業が始まったのはよかったのですが、単位の取り方が理解できず、事務局にたずねに行つて、ようやく理解ができた時は、ほっとしたものです。でも、学校に行けるようになったのはよかったのですが、何と教室は谷村小学校の木造校舎を間借りしての授業でした。更に、大月駅から富士急線に乗りかえて谷村駅に到着するまではいったい、どんな山奥に行くのだろうという不安で一杯だったことは、今も鮮明に思い出されます。

もう一つ思い出されるのは、ピアノの練習で、オルガンの練習時間になると、裸地球とバイエルを持って、夜中の8時や9時まで練習したことです。

このような思いをして学生時代を過ごした私達と新校舎、富

土急の駅が大学前に出来たり、ワンルームマンションでの生活をしてきた OB とでは、都留に対する思いには随分と格差がある様に感じます。

最後になりますが、兵庫県支部におきましても、都留文科大学の卒業生が一人でも多く、兵庫県の教師になってくれることを願って、年に2回ではありますが、模擬授業と面接指導に取り組んでおります。

採用試験は、難しいです。しかし、「何としても教師になるのだ」という強い意志を持ち続けて頑張ってもらいたいものです。

採用試験の勉強会についての問い合わせは

兵庫県洲本市安平町平安浦 1567-12

支部事務局長 庄田 康夫

TEL 0799-28-1197

攜帶 090-2045-6475



## 来年こそ・・・の思いを強く

奈良県支部長 岡田 善英

新型コロナウイルスの影響は、いまだに私たちの生活の奥深くに広がり衰えることがありません。寄せては返す波のように、時には形を変えて私たちを襲ってきています。世間では、第8波と呼ばれるまでに変異したウィルスが年末年始にかけて流行しようとしています。各支部の活動もコロナに翻弄される様子が報告されており、我が支部も同様です。

今年も同窓会支部総会・懇親会を計画しておりましたがコロナの感染状況が改善せず開催できませんでした。そこで、コロナ禍が下火になることを願って、時期を遅らせて再度の開催を試みたのですができませんでした。

二度ならず三度まで総会を中止しなければならない状況に、会の運営について緊密に連絡・相談してきた副会長とともに危機感を募らせております。

これまでお互いに声を掛け合い顔を見せることで、ささやかでも楽しい会合を続けてきていますが、さらに3年間のブランクが、会員相互の交流に重い影を落とさないかと心配になります。

こうした試練に立たされているのは、今や世界中の人々のあらゆる生活場面での共通の課題でもあります。来年度はコロナはどのような状況になっているのかだれも予測は難しい

## できることをする

和歌山県支部長 谷口 博保

コロナが下火になったり感染者数が増えてきたりというなかで、旅行支援ツアーがあったり、各種イベントが何年ぶりかで開催されたという報道を見たり聞いたりするようになってきました。

ウィズコロナ時代を生き抜くというかできることはやろうというような気概を感じます。

漫然とコロナと共存するということではなく、状況を見ながら細心の注意を払い感染対策を適切に講じ、本会の活動もできることはしっかりやらなければとの思いを改めて感じました。

本会の総会は、当初令和4年4月10日に予定していたのですが、その約2か月後の6月12日に延期し13名の参加を得て開催することができ楽しいひとときを過ごすことができました。

席上、本会のために役立ちたいとのうれしい申し入れをしてくださった方がおられ、役員の一員として加わっていただくことが承されました。

コロナだからやめようではなく、できることをするという気持ちを忘れず取り組みたいと思います。

## はじめの一歩から

岡山県支部長 関野 茂夫

新型コロナウイルス流行も第8波を数え、マスクが体の一部のようになっています。とはいえ岡山のあちこちからお祭りや大きなマラソン【岡山城】大会、リニューアルした岡山城のにぎわいのニュースが入るようになり、忘れていた日常がかえってくる予感を感じさせてくれます。



さて、去年は岡山で合唱コンクールがあり、我が母校が金賞・文部科学大臣賞を受賞され、うれしい知らせに心躍らせました。この勢いで総会・懇親会を再開し日常を取り戻そうと話していたのですが、中止となり残念な思いで一杯です。

今後支部として何ができるのかを考えたとき、まずは、3年間途切れてしまった岡山県支部同窓会のつながりを結び直すことがはじめの一歩です。岡山県支部同窓会の総会並びに懇親会は、例年2月上旬に行われるところですが、3年間途切れてしまっており、来年の案内が皆様方に届くかどうか心配です。つながりを結び直しの年になります。ぜひ近況をお知らせいただけると嬉しいです。そして多くの方が会に参加

でしょう。しかしながら、どんな時も希望を失わず、来年こそ明るい展望の持てる年になるよう元気に過ごしたいと考えています。

### 令和2・3・4年度 奈良県支部役員

|      |             |
|------|-------------|
| 名誉会長 | 滝川 佳市       |
| 会長   | 岡田 善英       |
| 副会長  | 高橋 強        |
|      | 山本 泰彦       |
| 監事   | 石田 好庸       |
| 理事   | 西尾八千穂 辻 明彦  |
|      | 米田 悦子 清水 直樹 |
|      | 池田 祐之       |

### 【令和4～5年度役員】

| 役職   | 氏名(卒年度学科)               |
|------|-------------------------|
| 顧問   | 前田 忠(S45初)              |
| 会長   | 谷口 博保(S51初)             |
| 副会長  | 廣田 千鶴(S50初) 阪中 美文(S53初) |
|      | 和田 靖子(S52初) 中村 善弘(S54国) |
| 事務局長 | 山田 欽哉(S52初)             |
| 監事   | 小左古 治(S45英) 山入 邦雄(S46英) |
|      | 木浦 憲一(S46初) 根田 渡(S47英)  |
| 庶務   | 平野 幹夫(S46初) 木原まり子(S50国) |
|      | 辻本 恵代(S50初) 真砂 良子(S54初) |
|      | 廣田 敬則(S55初) 鳥越 博(S57初)  |
|      | 永石 和(S57初)              |



いただけることを願っています。

今後とも少しずつ輪を広げながら、少しでも充実した活動ができるように頑張りたいと思います。現在は、下記の役員で頑張っています。

### 【役員】(令和元年度 改選)

|      |                |
|------|----------------|
| 顧問   | 原田直樹 菱川 徹      |
| 支部長  | 関野茂夫           |
| 副支部長 | 中野元雄           |
| 理事   | 野崎博子 岩城孝志 金池兼広 |
| 監査   | 廣田巨史 竹内真二      |
| 事務局  | 野崎博子 竹内充子 金池兼広 |



(令和2年2月8日 ピュアリティまきび)  
来年こそ皆様にお会いできますように願っています。

## 支部役員会報告と教職員不足について

熊本県支部企画担当 杉水 修

熊本県支部では、感染拡大防止のために令和4年度も大勢で集まることはできませんでしたが、8月20日に会長・副会長・会計・企画担当の4名で役員会を開催しました。

この役員会ではここ数年の事業報告や会計報告のほか規約改正について確認しました。そして時間をかけて話し合ったのは、今後の総会をどうするかということと、役員改選についてでした。

以前は支部総会を2年おきに開催していましたが、平成30年10月に開催した後はコロナ禍で開催を中止していました。今年度は何とか開催できないかということで計画は立てたものの、参加者に高齢者が多く、新型コロナウイルス感染の収束が見込めない現状を鑑みて、中止といたしました。

役員については高齢化が進み、活動が難しくなってきた方が増えてきたので、今回は大幅に見直すこととなりました。若い会員数名も新たに役員として引き受けていただくことができましたので、コロナが収まり新しい顔ぶれで集まることができると楽しみにしています。

役員改正については、本来なら総会にて承認していただくことになっていますが、開催できないため、今後支部の会員の皆様に書面にて通知する予定です。

他の都道府県も同様だと思いますが、熊本県もここ数年大量退職の時期を迎えるとともに、年々教員採用試験の受験者が減っていて、学校現場の人手不足の問題はかなり深刻な状況です。このような現状から学校現場で働く私たちに教職離れを防止するために、何ができるかということを最近よく考えます。

このところ学校という職場がいそがし過ぎるという報道が多いためか、よく保護者や地域の方から「先生たちはたいへんですね。」と言われることがあります。そんなときは、「たいへんなこともあります、とてもやり甲斐のある仕事です。」というような話を、学校が決してブラックな職場ではないことを伝えるようにしています。また、子どもたちが「自分も将来は〇〇先生のようにになりたい。」と思うような憧れの存在になることで、教師を目指す子どもが出てくるはずです。私も子どもたちにとって理想の大人像となるように、頑張りたいと思います。

## 宮崎県支部現況報告

宮崎県支部長 取附 義弘

宮崎県支部は、活動の主眼を会員相互の親睦と福利厚生を図ることに置き、さらに母校の発展に寄与することを目的に平成9年10月25日に結成しております。

本年度も、隔年開催としている支部総会等の活動を新型コロナウイルスの感染拡大により延期しております。

コロナ禍における本支部での活動としては、宮崎県支部の会報「椽：つるばみ」の発行を令和2年5月に行っています。「近況報告」「紀行文」「詩」「短歌」「随筆」「大学時代の思い出」等々の内容でありました。また、令和3年11月6日に行われた道の駅つる「大学同窓会連携事業おいしいものフェア」に出展させていただきました。その他、会員への暑中見舞い、年賀状の発送を行っております。

本年こそは、世の中が落ち着きを取り戻し、総会などの活動の再開、大学や道の駅を巡ねることを願っています。役員会で協議し、総会・講演会などの開催のご案内ができるようになりましたら、往復ハガキにてお知らせいたします。これまでの総会にご都合がつかず、欠会を余儀なくされた方々にも、次回総会でお会いできることを楽しみにしています。

それでは会員の皆様をはじめ、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げましてご報告に代えさせて戴きます。

## お問い合わせ先

都留文科大学同窓会 宮崎県支部 事務局長 波岡慎太郎  
〒889-0611 宮崎県東臼杵郡門川町大字門川尾末8103番地の1  
電話 090-9721-3021 メールアドレス: [jcdmw939@ybb.ne.jp](mailto:jcdmw939@ybb.ne.jp)



前回総会時 宮崎観光ホテルにて

## 新型コロナウイルス禍における同窓会活動

鹿児島県支部長 本田 武久

新型コロナウイルスにより一昨年、昨年と二度にわたり、総会を中止せざるを得ませんでした。未だにコロナウイルスは変異を繰り返しながら衰えをみせず、鹿児島県でも全国と同様に、感染者の数が高止まりの状態が続いています。このような状況にあつて、今年度も総会開催については、感染が心配され中止の方向で役員会で決定しました。また今年度は3月に「かごしま桂川会」の副会長として二十数年に恒り会の実務を執り仕切ってきた植村和信君が帰らぬ人となり、役員補充等も検討しなければならない時でもあり、せめて役員会だけでも開催し、役員の補充と会員名簿の充足に努めようとなりました。令和4年11月10日(土)午前11時より、鹿児島市のホテル吹上荘で役員会を開催し、副支部長の検討を行い、後記のような人選を行いました。また、これまで八十名程の会員名簿で推移していましたが、役員間で連絡を取り合い新たに百名程の会員名簿を作成することができましたが、故人が十数名把握できました。今年度の支部の朗報として、事務局の中村さんが鹿児島県教育委員会社会教育課長として着任した件です。更なる活躍を我々同窓会として祈念するとともに健康に留意され職務に専念されるよう願っています。役員会では更に会員名簿の充実に向けて連絡

を図り同窓会組織の拡充を図っていくことを確認して閉会しました。



会 長 本田 武久 (昭和43年度卒)  
副会長 大山 典男 (昭和45年度卒)  
副会長 水流 広之 (昭和55年度卒)  
事務局 橋野三智男 (昭和58年度卒)  
事務局 中村 智子 (平成元年度卒)  
監 事 室屋 綾 (平成2年度卒)  
監 事 平澤 泰明 (昭和41年度卒)



## 体 育 会 紹 介

### 令和4年度 体育会会長 齊藤 優

早春の候、都留文科大学の同窓会の諸先輩方に置かれましてはますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。

令和4年度体育会本部は「勇往邁進」という基本方針の下活動いたしました。近年鶴鷹祭を開催することが厳しく、今年こそは開催し勝利したいという思いでしたが、新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催はできないと非常に残念な結果になりました。しかし、昨年度より新型コロナウイルスによる規制が緩和され、リーグ戦など多くの大会に各部参加し、好成績を収めることができました。現段階では来年度の鶴鷹祭は都留の地で開催する予定であります。来年度は鶴鷹祭が無事開催され勝利をあげられることを祈願いたします。

コロナ禍の中で、様々な大会に参加、活動ができていることは先輩方の多くのご支援、ご協力があるからこそだと考えております。今後とも都留文科大学体育会をよろしくお願いいたします。



### 令和4年度 男子アイスホッケー部主将 鶴窪 廉

今年度私たちアイスホッケー部は、関東大学アイスホッケーリーグ4部昇格を目標に、日々の練習に励んでおります。現在マネージャーを含め18人と少人数ではありますが、各個人がそれぞれ目標を持って日々の練習を“厳しさの中にも楽しさあり”という気持ちで行ってまいりました。また今年度は、1年間を通して県内のチームや夏季大会などで経験を積み、ほとんどの部員が大学からアイスホッケーを始めたという状況ではありましたが、経験者を多数擁する他大学との試合においても、互角の勝負を繰り広げるほどに成長できたと実感しております。

私自身、入学当初から新型コロナウイルスによって学校生活や部の活動が思うように出来なかったこともあり、

今無事に活動できていることに感謝の気持ちしかありません。日々活動を支えてくださっている多くの方々への感謝を忘れず、精進していきたく思いますので、今後とも男子アイスホッケー部をよろしくお願い致します。



### 令和4年度 女子バスケットボール部 赤井 円香

今年度、私たち女子バスケットボール部は、関東リーグ3部残留を目標に日々練習に励んできました。新型コロナウイルスの影響で、十分な準備をすることができないなかでの1次リーグでは、満足する結果は得られませんでした。その悔しい気持ちをバネにして、対策を行い、どんなチーム相手でも私たちらしいプレーをすることができ、2次リーグでは、全勝することができました。来年度は、1次リーグ、2次リーグ共に自分たちの満足いく結果を残せるよう日々取り組んでいきたいと思います。

このように、私たち女子バスケットボール部が活動できているのは、体育会本部並びに後援会、同窓会員の皆様のご協力とご声援のおかげです。私たちの活動を支え

てくれる方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも日々精進してまいりますので、今後とも女子バスケットボール部をよろしくお願い致します。



### 令和4年度 男子バスケットボール部 野本 和玖

男子バスケットボール部は1年生7名、2年生3名、マネージャー5名の15名で活動しています。10月の関東大学5部リーグ戦では4部入れ替え戦まであと一歩というところで負けてしまい、シーズンが終了し、チームの中心だった3、4年生が引退をしました。1、2年生の新チームは3、4年生と違い、少人数で身長が低く、技術もなく、試合経験も少ないメンバーです。しかし、学年関係なく意見を言い合えるところやチームに合った戦術、必要な練習メニューを考える事ができるというのは3、4年生にも負けない新チームの強みです。その強みを生かして日々練習に一生懸命励み、身長が高い相手にも負けない堅いディフェンスとスリーポイントが武

器のチームを作っていきたいです。そして、来年のリーグ戦では4部へ昇格し、3、4年生が超えられなかった壁を超えたいです。



## 文化会 紹介

### 令和4年度 文化会会長 谷 輝星

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度の文化会では昨年度よりも感染症対策による規制が緩和され例年に近い形での活動を行うことが出来ました。全国的に感染症と共に生活することが当たり前になってきて気が緩みがちになる頃ではありますが、文化会ではより一層快適かつ安全に所属団体が部活動やサークル活動を行えるよう日々その環境の整備のために活動しております。

本年度は学生生活の会も対面で行うことが出来るようになりました。それだけではなく桂川祭が対面で行うことが可能になったように少しずつ状況が前に向いて変

わってきています。そういった変化で役員には不慣れなことが多い中、今日の文化会があるのはひとえに大学職員の方々を始め全ての関係者の皆様の多大なご支援・ご協力のおかげです。お力添え頂きありがとうございます。今後とも文化会は感染症対策に力を入れつつ、より良い活動が続けていくために邁進してまいりますので、文化会をよろしくお願いいたします。

### 令和4年度 Revo 編集部 河野 風紗

Revo 編集部は、「プラスαの楽しみを。」をコンセプトとし、主に都留文科大学に通う学生のためのフリーペーパー Revo の制作を行う活動をしています。

近年では、少しでも多くの皆様に Revo 編集部での活動を知っていただき目にしてもらえるよう、SNS にて電子版を発行するなど工夫して活動して参りました。そして Revo は多くの皆様に支えられ、今年で 50 号を迎えることができました。

さらに、学校や企業、地域の方々から依頼を受け、大学生ならではの目線から記事やポスターの作成等も行参りました。Revo を制作する中で得た知識や経験を生かして他の活動と結び付くことで、部員自身が刺激を

受け、より一層制作に力を入れていくことができました。

まだ通常通りの活動ができない日々が続きますが、協賛して下さる企業の皆様や地域の皆様との関わり合いに重きを置き、これからも私たちに「プラスαの楽しみを。」追

求し、少しでも多くの皆様にお届けして参りたいと思います。今後とも変わらぬご声援を承りたくお願い申し上げます。



### 令和4年度 茶道部部长 長谷川 華音

茶道部は毎週月曜日・第2第4水曜日に活動しています。部員の多くが大学生から茶道を始めましたが、裏千家茶道の先生のご指導のもと、茶道を学びたいという思いで基本から練習に励んでいます。

今年度は新型コロナウイルスの影響が少なくなり、通常活動以外に他団体との交流や学外のイベント参加が多できた年でもありました。掲載写真は「地域の方が茶道に触れる機会を作りたい」という目的で行ったつるっ子プロジェクトとのコラボイベントです。その他に七夕茶会とクリスマス茶会では「留学生にお茶の文化を知って楽しんでもらう」ことを目的とした交流も行うことができました。

また、3年ぶりに開催された山梨県中の茶道部が集まる「学生茶道の集い」ではお互いに披露し合い、学び合う機会となりました。

これらの活動ができたのも支えて下さる皆様のおかげです。これからも技術向上と茶道の魅力を知ってもらうことを目標に精進して参ります。今後とも茶道部をよろしくお願いいたします。



### 令和4年度 アカペラサークル☆☆☆会長 大津 萌々子

アカペラサークル☆☆☆は、毎週火曜日に定例会を行っています。また、サークル員が自由にバンドを組み、発表会で披露することを通して、楽しく歌うことを目的に活動を行っています。今年度も2度の部内発表会、桂川祭での発表を行いました。バンドは、学年も男女も問わず自由に生まれ、歌謡曲から最新のヒットソングまで、ジャンルに富んだ曲を練習します。メロディを歌うリードの他に、ファースト、セカンド、サードの3人のコーラス隊、ベース、ボイスパーカッションの6人でバンドを構成し、全員で歌うことで、1曲が完成します。全員で心をあわせて歌うことで、絆が生まれ、サークル員は仲が良く、雰囲気も良いです。

新型コロナウイルスの影響で、練習の自粛や発表の場の制限が課せられることになり、イベントも小規模になってしまいましたが、サークル員全員が楽しみながら歌うことができるよう、また、皆様に素敵な歌声をお届けできるよう精進して参ります。今後とも、アカペラサークル☆☆☆をよろしくお願いいたします。





# 2024年度学部再編と カリキュラム改訂

副学長・将来構想委員会委員長

田中 昌弥

## 公立大学も淘汰の時代に

大学は、淘汰の時代に入っています。私立大学の半数近くが定員割れを起こす一方、これまで以上に志願者を集めているところもあり、選ばれる大学とそれ以外との格差が拡大しています。また、経営に苦しみ私立大学からの移行もあり、公立大学の数は、2022年4月時点で、30年前の約2.4倍にあたる99大学に増えました。こうなると公立大学というだけではアピールにならず、「教育の質」が一層強く求められます。

## 転換が求められる「教育の質」

ところが、大学に求められる「教育の質」が、今、大きく転換しつつあります。政策的にそれを明示したのが2018年11月の中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」です。これは、「予測不可能な時代を生きる人材の養成」のため、大学教育に対し、教員が何を教えたいかという「教育者本位の教育」から、学修者自身が、主体的にどのような目的意識をもって学ぶのかを中心に据える「学修者本位の教育」への転換を求めたものです。

このような「転換」を言われると、全く新しい教育が必要であるかに感じられ、実際、多くの大学が答申への対応に追われています。しかし、答申が重視するキャリア支援領域の声を直接聞くと、仕事の現場が大学卒業生に求める資質・能力が、もう少し具体的に見えてきます。そこで共通してあげられているのは、

- ・他者と助け合える。
- ・課題を発見し、多面的に解決に取り組める。
- ・自らの課題に対応するレジリエンスがある。
- ・仕事や思考においてITを活用できる。

といった点です。特にITについては、理系にとどまらず、人文・社会科学系の資質を持ってITを活用できる人材が求められています。

## 本学改革の基本方針

こうして見ると、同窓生の皆様は感じられていると思いますが、本学の環境や教育には、今日求められている転換につながる可能性がすでに含まれていることがわかります。九割近くの学生が山梨県外の全国から集まって一人暮らしをしつつ、大学周辺で

密接な人間関係を結ぶ本学の学生生活や、教員養成の伝統は、他者理解や協働、レジリエンスの資質を育成する場となっています。卒業論文を全員に課す学問志向の教育は、自ら課題を発見し、正解のない問いを探究し続ける資質を養います。地域・国際交流の重視は、視野を広げ、学問と現実との関係を試す場となります。

そこで本学では、これらの可能性を時代の要請につなぐ教育を2024年(令和6年)度から開始すべく、2021年度初めから将来構想委員会で議論を開始し、今年度後半からはカリキュラム改訂特別委員会で具体的作業に入っています。改革の柱は、次の三点です。

### ①学部再編

2018年度に設置した2学部の構成を変更し、文学部を国文学科と英文学科の2学科、教養学部を学校教育学科、地域社会学科、比較文化学科、国際教育学科の4学科による構成とします。

これにより、文学部は、「ことば」を深く探究する学部として、リテラシーの意義を再確認し育てる人材の育成、時代を把握する新しい言葉の開拓・研究を進める場となります。教養学部は、教育、文化、社会科学系の4学科が連携することで学生が各自の専門を探究しつつ、学びを広げ、深められる場とします。

### ②カリキュラム改訂

カリキュラム改訂では、長年にわたって建て増しされてきた内容を精選し、学生が主体的に選択できる余地を広げる一方、すべての学生がITや情報関連の基礎的素養を身に付けられるようにします。また、副専攻も設置し、複数の専門を深められるようにします。

### ③新しい学びの場の設置

都留市のご支援の下、旧南都留合同庁舎を改築した「6号館(仮称)」と都留市の複合型居住プロジェクトの中に新築する「フィールド・ミュージアム(仮称)」という二つの学びの場を新設します。前者は、学生、教員、地域の子どもたちが集う中で新しい学びを探究し、「深める」ラボ(研究の場)としての性格を持ちます。デジタルによる創作、VRの教育への活用などにも取り組みます。後者は、学生と幼児、高齢者を含む多世代の出会いで学びを「広げる」場とし、多様な活動や遊びを通した文理融合もテーマとします。

これらは、授業以上に学生を成長させてきた都留の地域の教育力を大学が自覚的に取り込むことを意図したものでもあります。

以上により、生涯、学びを楽しみ、社会で役割を果たす人を育てる教育を充実させていく所存です。

## 都留文科大学イメージ アップ事業 「富士山プロジェクト 2022-つるのひと越え」

富士山プロジェクト2022 実行委員会  
学長補佐・文学部英文学科教授



### 加藤 めぐみ

コロナ禍を越え、映画・自然・音楽・演劇・文学を通して人々がふたたび集えたら——そんな願いを込めて、2022年秋、「富士山映画祭」「富士山学講座」「富士山音楽祭」「富士山文学祭」の四つの祭典、7つのイベントからなる「富士山プロジェクト2022」を、都留文科大学キャンパスおよび都の杜うぐいすホール<sup>たかし</sup>の大小のホールで開催した。

マスク越し、オンライン越しでしか人や世界とつながることができない不自由な日々が続くなか、ポスト・コロナ時代への「希望」として、2021年夏、「都留文科大学イメージアップ事業」のアイデア募集の呼びかけがあった。そこで提案し、採択されたのが本プロジェクトである。ローカルからグローバルへ、都留から世界へ——「富士山プロジェクト2022」では都留文科大学、富士山を起点として世界に広がる文化的、学術的ネットワークをひとつに結集し、「つるのひと越え」と題して、コロナ禍を越え、言語、ジャンル、ジェンダーの壁を越え、また国境を越え

ていくことを目指した。

8人の本学教員からなる実行委員会を中心にすすめられた本プロジェクトは、理事長、学長、事務局長はじめ教職員、卒業生、学生、都留市の多く皆様の協力を得て、無事成功裡に終わった。6月に公募したコンテストでポスターデザイン賞を受賞した平井しず香さん（地社4年）にはポスター、プログラム、ホームページなどプロジェクト全体のデザインを、英文卒業生の田中吉雄氏が率いるアクトワンのスタッフ、学生サークルPLUSONE+、写真部にはイベントの運営（照明・音響・記録）を、企画広報担当にはプロジェクトの広報でご尽力いただき、さらに都留市、都留市教育委員会からの後援、富士急グループの協賛を得て、のべ1000人近い国内外、県内外からの来場者を得る一大プロジェクトを実施することができた。ポスターが富士急行、街のあちこちに貼られ、山梨日日新聞、読売新聞でも報じられ、都留文科大学のイメージアップに貢献する事業となったのではと自負している。ここに関係者各位、出演者及び来場者に感謝申し上げるとともに以下で各イベントの概要をご報告したい。



## 発足20周年を迎えた 地域交流研究センター

地域交流研究センター長

北垣 憲仁

都留文科大学の地域交流研究センターは、2003年4月に発足しました。今年度で20周年を迎えることとなりました。同窓会のみなさまには日ごろより当センターへのご理解とご協力をいただきありがとうございます。心より感謝を申し上げます。

地域交流研究センターは、都留文科大学と地域をつなぎ、地域づくりのさまざまな活動と研究に取り組むための拠点です。都留文科大学は、全国から学生が集まるためほとんどの学生が大学周辺に下宿をし、市民との交流が盛んでした。また自然と人びとの暮らしが近いという都留市の特徴を背景に、本学ならではの地道な諸実践がこの地域で誕生してきました。

たとえば、大田 堯<sup>たかし</sup>元学長による、都留市全体を自然博物館にして本物に触れる生きた学びを経験しようとする構想があります。さらには、都留市を象徴する動物ともなっているムササビの観察を都留市で始めた今泉吉晴名誉教授による、地域をミュージ

アムに見立てた「都留フィールド・ミュージアム」の取り組みも同時期に構想されたものです。このほかにもさまざまな教育実践や研究がこの地域で生まれ、育まれてきました。

2007年度には、こうした諸実践が文部科学省による「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択され、地域資料をデジタル化し保存・運営していく「オープン・アーカイブ」という活動や、学生が主体となって地域を観察し記録する機関誌『フィールド・ノート』の定期的な出版が実現しました。地域交流研究センター発足当時から歩みをともにしてきたこの機関誌も今年、20周年を迎えます。

2010年には、本学が蓄積してきた地域の野生動物研究の成果や標本類を提供した特別企画展「大哺乳類展」が国立科学博物館で開催され、本学も共催として参加しました。開催期間の3ヶ月で、およそ30万人の来館者があり、全国に交流の輪を広げる契機ともなりました。

こうした特色あるさまざまな実践や理念を大学としても大切に継承し発展させることを目的に地域交流研究センターが発足しました。「人間探究」を掲げる都留文科大学でこれからも地域に根ざした、特色ある交流と活動を進めていきます。そしてこれまでの交流の蓄積を大切に、よき未来を築くことに資するセンターであり続けたいと思います。



## 都留文科大学附属小学校の 児童が都留文科大学を見学！

11月7日(月)、都留文科大学附属小学校の児童34名が都留文科大学を訪れ、加藤敦子副学長による大学の説明、特別講義やキャンパスツアーを通し、大学の雰囲気を体験しました。

語学教育センターのDelgrego,Nicholas Dirk 准教授による特別授業は、国際教育学科の留学生5名を交え、全て英語で行われました。低学年は英語のミニ本を作成したり、高学年は自分の好きなもの・嫌いなものを英語で表現してみたり、ネイティブ教員による生きた英語を学びました。

キャンパスツアーでは、学長室を訪問し、藤田英典学長との交流や地域交流研究センターで北垣憲仁教授の説明のもと、動物の骨、パンダのフンやムササビの標本などを見学しました。高学年はOlagboyega, Kolawole Waziri 教授や山辺恵理子准教授の授業やゼミの様子を見学しました。

後日、感謝の気持ちとして児童全員からお手紙が届けられました。手紙の一部を紹介します。

- 「おうちでえいごをれんしゅうしてみたいです。」  
(1年女子)
- 「ニック先生に英語を教えてもらいうれしかったです。」  
(2年男子)
- 「学長室に入って学長先生とお話がたくさんできて良かったです。」  
(3年男子)
- 「一番おどろいたのは、北がき先生がムササビを見せてくれ、私たちの学校にいるムササビが一番大きい種類と言われたことです。」  
(3年女子)

- 「私も大きくなったら、都留文科大学に通いたいです。」  
(4年女子)
- 「大学で学ぶということは、自分自身が“何のために生きるか”“これからどのように生きるか”という問いに対する答えを見つけるためだということを知りました。」  
(4年女子)
- 「高校を卒業したら、文大に入学したいなと思いました。」  
(4年女子)
- 「小学生と中学生は決められたことを、大学は学びたいことを学ぶことを知りました。」  
(5年女子)
- 「学食には美味しそうなカレーやどんぶりがあってお腹が“グー”となりそうでした。」  
(5年女子)
- 「僕は将来、研究者になりたいので、都留文科大学で勉強して夢をかなえたいです。」  
(6年男子)
- 「英語の授業では、緊張していましたが、英語の先生方がわかりやすく丁寧に説明してくれたおかげで、楽しく学ぶことができました。」  
(6年男子)

最後に、附属小の児童の皆さん、お手紙ありがとうございました。高校卒業後、都留文科大学でお待ちしています！



## 旭小学校の閉校と姿を消した 石船神社のムササビ

小口 尚良

昨年(2022年)秋、旭小学校のムササビ学習会に招かれ、石船神社のムササビ、野生動物との共生について話をしました。

私が旭小に初めて行ったのは学生時代でした。動物学ゼミの一員として所属していた「ムササビと森を守る会」による「ムササビ教室」に参加したのが最初です。ゼミの担当は今泉吉晴教授。教授により都留市のムササビは全国的に有名になりました。絵本「むささびのおやこ」(1981年 新日本出版社)は第27回青少年読書感想文コンクールの課題図書になり全国の小学生に読まれました。また「ムササビ 小さな森のちえくらべ」(1983年 平凡社)は、第4回日本科学読み物賞を受賞し、その後、東京書籍4年生の国語の教科書に説明文の教材として長期にわたり掲載されました。その中心となったのが、旭小学校の隣にある石船神社のムササビの話です。野生動物との共生をテーマとしたこの教材は全国の小学生に読まれ、保護活動を続けていた旭小学校には、全国からたくさんのどんぐりが送られてきました。

1994年から4年間、私は旭小に勤務しました。それまで主に6年生で行っていた保護活動(神社に閉じ込められたムササビのえさ不足を補う餌付け)を、縦割り班活動にしました。2003年、この活動は環境省自然環境局長賞を受賞しました。しかし、ムササビの個体数は徐々に減り、2019年の確認を最後に姿を消してしまいました。そしてまた、旭小学校も、児童数減少により今年度(2022年度)末で閉校となります。

1983年動物学ゼミに入ってから40年、都留の自然と子供たちの橋渡しを考えて活動してきました。市内のムササビの状況はかなり変わりましたが、都留の森でたくましく暮らしています。1989年からは、今泉教授が提唱したフィールドミュージアム構想におけるエンカウンタースペース(動物たちとの出会いの場)を活用し、子供たちを対象にムササビやリス、野ネズミに会う観察会(うら山観察会)を続けています。今後、少子化はますます進み、市内小中学校の状況も変わっていくと思いますが、自然との共生も学校の形も都留市の良さにつながっていくように変わっていくことを望みます。



# 寄附金のお願い

ツルブソへの寄附の仕方は2パターンあります！

都留文科大学は、現場が求める教師像を常に研究し、子ども達と共に輝ける教員を育成して、全国へと送り出してきました。

地域の人々と連携しながら育成してきた実践力ある人材は、幅広い分野で活躍しています。

地域と世界を自在に往き来できるグローバル人材を育成し、世界に発信していきます。

## イレゾから



寄附額 1,000 円  
から可能です

インターネットまたは  
銀行振込でお申込み  
いただけます

詳細はこちら ▶



インターネットによるお申込みは  
以下の決済方法をお選びいただけます。

- Pay-easy (ペイジー)
- クレジットカード



- コンビニエンスストア



### 使い道



法人の運営に要する経費



教育に要する経費



学術研究に要する経費



奨学金制度の充実など

## ふるさと納税 から

- ①都留市のホームページからふるさと納税をチェック！
- ②各種ふるさと納税ポータルサイトで必要事項を入力
- ③選べる使い道で【子育て支援と教育支援】を選択！



詳細はこちら ▶

ふるさと納税から返礼品も！

楽天ふるさと納税からのみ「学食体験チケット」の返礼品も！！

納税 10,000 円で  
3,000 円分 学食体験チケット

( 100 円 × 25 枚 )  
( 50 円 × 10 枚 )





第27回都留文科大学同窓会総会のお知らせ

○日時 2023年8月5日(土) 午後2時  
○場所 都留文科大学

同窓会会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。  
新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大して、今年で3年目となります。この間、第26回同窓会総会や毎年行われる理事会を紙面審議とさせていただくなど、同窓会の様々な事業の実施にも大きな影響を受けてきました。そのような中ではありますが、令和4年度は、5月の「模擬面接試験体験会」をオンラインで開催いたしました。「できない」ではなく「どのよう

にすればできるか」と考え、各支部においても工夫しながら学習会や模擬面接等の実施に向けてご尽力いただいております。  
さて、令和5年度は、同窓会総会の開催が予定されています。現状では「第27回都留文科大学同窓会総会」を上記の通り開催する予定です。会員の皆様の参加を心よりお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染症が収束し、盛大な総会が開催できますことを執行部も大学当局も切に願っています。  
なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、総会の実施の有無・実施方法等を変更する場合があります。その際は、改めて各支部長への通知及び大学ホームページにてお知らせいたします。

令和3年度 都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部 (単位：円)

| 項 目     | 当初予算額      | 補正予算額 | 予算現額       | 収入済額       | 備 考                     |
|---------|------------|-------|------------|------------|-------------------------|
| 入 会 金   | 4,040,000  | 0     | 4,040,000  | 4,040,000  | 808人×5,000円＝4,040,000円  |
| 終 身 会 費 | 8,080,000  | 0     | 8,080,000  | 8,080,000  | 808人×10,000円＝8,080,000円 |
| 繰 越 金   | 7,163,793  | 0     | 7,163,793  | 7,163,793  | 令和2年度繰越金                |
| 雑 入     | 60,000     | 0     | 60,000     | 398        | 預金利息                    |
| 収 入 合 計 | 19,343,793 | 0     | 19,343,793 | 19,284,191 |                         |

◆支出の部 (単位：円)

| 項 目         | 当初予算額      | 補正予算額      | 予算現額       | 収入済額       | 備 考                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------|------------|------------|------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事 業 費       | 10,570,000 | 300,000    | 10,870,000 | 7,978,919  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 会 報 発 行 費   | 3,200,000  | 300,000    | 3,500,000  | 3,451,099  | 同窓会報第40号(令和3年度発行)                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 支 部 助 成 金   | 3,800,000  | 0          | 3,800,000  | 3,760,000  | 東京 神奈川 山梨 長野 静岡 愛知<br>720,000円(@120,000円×6支部)<br>北海道 岩手 宮城 富山 石川 兵庫 千葉<br>770,000円(@110,000円×7支部)<br>埼玉 福井 岐阜 大阪 広島 徳島 岡山 群馬 栃木 山形 三重<br>1,100,000円(@100,000円×11支部)<br>京都 島根 愛媛 長崎 鹿児島 沖縄 青森<br>630,000円(@90,000円×7支部)<br>滋賀 和歌山 鳥取 熊本 宮崎<br>400,000円(@80,000円×5支部)<br>奈良 高知<br>140,000円(@70,000円×2支部) |
| 支部設立準備金     | 300,000    | 0          | 300,000    | 0          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 新 入 学 祝 費   | 700,000    | 0          | 700,000    | 512,820    | 令和4年度入学祝 新入生記念品                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 支部旗作成費      | 120,000    | 0          | 120,000    | 0          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 教員採用試験学習会費  | 450,000    | 0          | 450,000    | 105,000    | 富山 兵庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 被災地支援活動費    | 2,000,000  | 0          | 2,000,000  | 150,000    | 被災地支援金(宮城)                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 会 議 費       | 800,000    | 0          | 800,000    | 27,170     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 総 会 費       | 800,000    | 0          | 800,000    | 27,170     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 理 事 会 費 等   | 0          | 0          | 0          | 0          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 同 窓 会 本 部 費 | 2,560,000  | 0          | 2,560,000  | 1,024,815  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 事 務 費       | 250,000    | 0          | 250,000    | 136,952    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 運 営 費       | 1,850,000  | 0          | 1,850,000  | 737,863    | 貸金負担金700,000円含む                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 慶 弔 費       | 340,000    | 0          | 340,000    | 40,000     | 卒業式祝い生花代ほか                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 本部役員活動費     | 120,000    | 0          | 120,000    | 110,000    | 令和3年度役員報酬                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 積 立 金       | 2,000,000  | 3,000,000  | 5,000,000  | 5,000,000  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 予 備 費       | 3,413,793  | △3,300,000 | 113,793    | 0          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 支 出 合 計     | 19,343,793 | 0          | 19,343,793 | 14,030,904 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

(収入済額) (支出額) (収入・支出差引残高額)  
¥19,284,191 - 14,030,904 = 5,253,287

◎令和3年度 基金積立及び取崩状況

◆財政調整基金積立金額 0円  
◆大学創立記念事業基金積立金額 5,000,000円  
積立金合計額 5,000,000円  
◆財政調整基金取崩金額 0円  
◆大学創立記念事業基金取崩金額 0円  
取崩金合計額 0円

令和3年度末 基金の内訳  
財政調整基金 5,648,315円  
大学創立記念事業基金 33,525,967円  
計 39,174,282円

令和4年度 都留文科大学同窓会都道府県別会員数

令和5年1月1日現在

| No | 県 名 | 会員数 | No | 県 名  | 会員数   | No | 県 名  | 会員数   | No | 県 名 | 会員数 | No | 県 名    | 会員数    |
|----|-----|-----|----|------|-------|----|------|-------|----|-----|-----|----|--------|--------|
| 1  | 北海道 | 611 | 11 | 埼玉県  | 553   | 21 | 岐阜県  | 580   | 31 | 鳥取県 | 158 | 41 | 佐賀県    | 80     |
| 2  | 青森県 | 267 | 12 | 千葉県  | 611   | 22 | 静岡県  | 1,713 | 32 | 島根県 | 222 | 42 | 長崎県    | 222    |
| 3  | 岩手県 | 672 | 13 | 東京都  | 1,326 | 23 | 愛知県  | 1,208 | 33 | 岡山県 | 411 | 43 | 熊本県    | 183    |
| 4  | 宮城県 | 593 | 14 | 神奈川県 | 1,221 | 24 | 三重県  | 404   | 34 | 広島県 | 486 | 44 | 大分県    | 113    |
| 5  | 秋田県 | 271 | 15 | 新潟県  | 659   | 25 | 滋賀県  | 105   | 35 | 山口県 | 157 | 45 | 宮崎県    | 156    |
| 6  | 山形県 | 392 | 16 | 富山県  | 701   | 26 | 京都府  | 254   | 36 | 徳島県 | 445 | 46 | 鹿児島県   | 336    |
| 7  | 福島県 | 740 | 17 | 石川県  | 627   | 27 | 大阪府  | 454   | 37 | 香川県 | 150 | 47 | 沖縄県    | 250    |
| 8  | 茨城県 | 503 | 18 | 福井県  | 544   | 28 | 兵庫県  | 818   | 38 | 愛媛県 | 355 | 48 | 外国・不明等 | 11,697 |
| 9  | 栃木県 | 514 | 19 | 山梨県  | 4,050 | 29 | 奈良県  | 83    | 39 | 高知県 | 85  |    | 合 計    | 38,111 |
| 10 | 群馬県 | 418 | 20 | 長野県  | 1,298 | 30 | 和歌山県 | 200   | 40 | 福岡県 | 215 |    |        |        |

県支部設立済都道府県

## 改修工事の進捗状況 ～山梨県旧南都留合同庁舎から都留文科大学新棟へ～

工事前(庁舎前面)



工事中(初期)



工事中(中期)



工事中(後期)



完成間近(昼)



完成間近(夜)



## 氏名・所等変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAX をお願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須事項及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担をお願いします。

## 1 ホームページ

(1) ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページ  
URL : <http://www.tsuru.ac.jp>



(2) ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のパスワードが必要となります。

パスワード : tbdh2206 (半角英数)

※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

## 2 E-mail にて送信

E-mail : [dousokai@tsuru.ac.jp](mailto:dousokai@tsuru.ac.jp)

## 3 FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1  
都留文科大学同窓会 宛  
TEL 0554-43-4341 内線 206  
FAX 0554-43-4347

| ◎必須項目       | ○変更内容      |
|-------------|------------|
| 氏名(フリガナ)／旧姓 | 現住所／電話番号   |
| 卒業年・学科      | 勤務先名       |
| 生年月日        | 勤務先住所／電話番号 |
|             | 勤務先の役職     |

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合があります。もし届かない場合はご連絡ください。